

# 體源鈔

一七册	二架	八九函	二七六九二號	和書門類
-----	----	-----	--------	------

一九九函	二七六九二號	和書
六架	一七册	類

(大)

內閣文庫	
番號	和 27692
冊數	17 ( 6 )
函號	199 132



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



四



明治十三年購求

答笙之事

重記之三管之品再編黃已下  
故實調以才事大畧載

又名鳳管又名階笙  
笙者所庚切

夫笙者大族之氣上春之音也河汾之寶曲液之懸

匏アウ鄒魯之珎汝陽之流アウ蘇子アウ習アウ春風離鶴

霧アウ咽如アウ蒼アウ花アウ秋月アウ別鶴アウ霄鳴アウ似アウ况又王子

晉維嶺遊一聲風管アウ送穆天子陰池宴アウ數

曲アウ夢吟和樂聲アウ鼓アウ室アウ盡アウ歡悲音奏アウ哇アウ列アウ

江アウ鏡是陰陽道アウ達風俗源易アウ釋名曰アウ音生俗云

竹之母曰匏アウ薄交反アウ俗云定保以瓢為之竿名是也竿アウ音アウ其中

受簧アウ俗云アウ於管頭橫アウ施於其中アウ同曰アウ笙

生也物地貫生アウ象アウ又アウ篳アウ匏アウ是アウ作アウ故

生也物地貫生アウ象アウ又アウ篳アウ匏アウ是アウ作アウ故



匏ト云竽又是也其中空シテ以テ簧ヲ受也今案曰竹  
之母曰匏 混天蓋ニ云ク笙ハ女媧氏作所也十九之鳳濱  
立鳴聲種ナリ女媧是ヲ聞テ解谷竹ヲ切テ笙ヲ作ル仍  
稱鳳管ト名也 禮記云女媧笙簧ヲ造 文選注云女  
媧氏笙ヲ作ル 列仙傳云王子喬笙歌ヲ作成云王  
子晉ト云人馮嶺山ト云山ヲスル鳳凰ノ鳴色聞テ造テ吹  
習故鳳管ト云 吳都賦云非笙箏象ル 說文云  
笙ハ正月音物生故是ヲ笙ト云十三簧アリ鳳聲ノ象ハ  
遊方回錄云竹ヲ簧トス匏ヲ笙トス 介雅云大笙是ノ巢  
ト云小者是ヲ和ト云  
鄭陸云大笙管ヲ匏ノ中ニ列テ簧施スリ管ノ端ニ大者十  
九簧小者十三簧 拙為舍人ノ大笙音聲衆ノ高シ小者音

相和ナリ 摺本云相知ト云

白虎通云笙之言ハ匏也萬物始施ラ牙笙者大族之  
氣也萬物之生ル象ル也故生ト云 月云笙七政節アリ  
四方ト天地ト也六人和了リ天地系之故是笙ト云 此二ハ  
前ニ注シタルト云地卷ノ前後ナレ書シル  
今案史記律書曰正月律泰族アク泰族ハ言ハ萬物  
蔡邕月令章句云季秋同上下入學習吹笙氣通  
故ナリ同云宮管九方旁アリ十九簧十三簧至了笙ト云  
穆天子傳云西番吟曰吹笙鼓簧簧在中心翱翔多  
尚書益稷云笙鋪以同鳥獸踏ル孔安國云造笙  
吹鼓擊鳥獸德ヲ作テ相率日舞踏ル

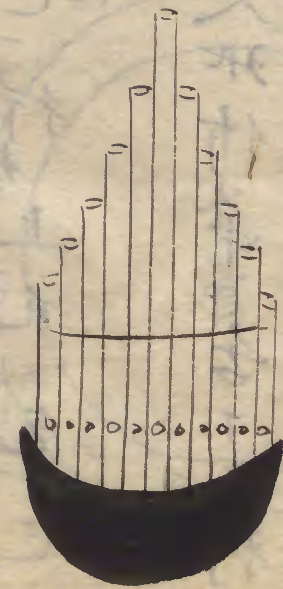
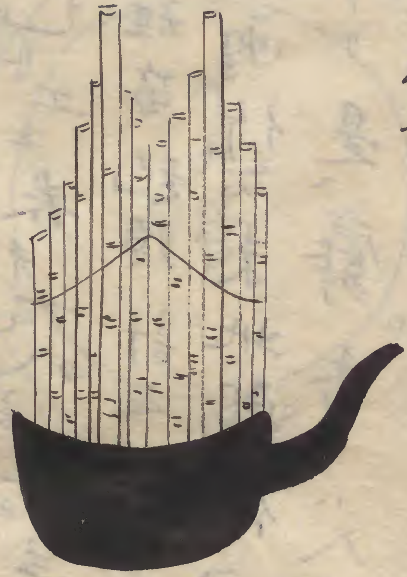


又云惟簧也能群聲清ヲ研惟笙也能象清之林惣  
 匏溶詩云心ハ羨周靈王太子碧桃花下好吹笙  
 有録云懸匏ハ曲波上ホリ孤篠ハ汝陽隈ハ歌臺鳥翼  
 寫之色舞鳳ノ若純歡娛北里ヨリ純孝南院  
 即ク今日ハ虞音ヲ卷テ踏シ鳥獸來  
 止觀第一云崑竹キラサレ鳳音アラワレ性情練  
 己サレ神明ノ發セトイハ未ズ顯ス為レ衆王ノ既顯ス為レ佛  
 文集詩云推竹藏絲不足聞  
今葉ハ云推竹者笙簧弱ハ其音不堅族也云藏  
 絲者彈絃音藏テ不養

笙

笙

巢笙



笙 長一尺八寸

圍七寸

管 十九 今十七

簧 笙中舌也

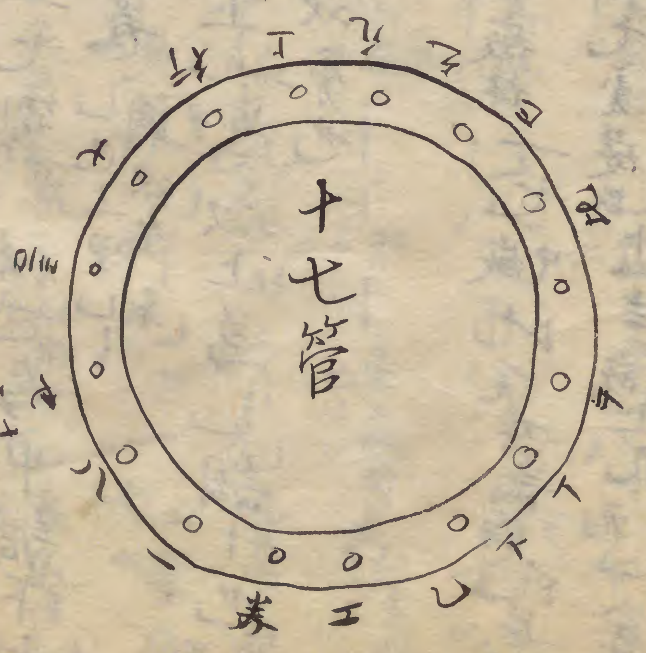


鳳笙



竹坑名者

千<sup>北</sup>十<sup>下</sup>已<sup>上</sup>下<sup>工</sup>也<sup>上</sup>也<sup>八</sup>也<sup>言</sup>也<sup>七</sup>也<sup>一</sup>行<sup>上</sup>也<sup>九</sup>也<sup>下</sup>也<sup>已</sup>也<sup>下</sup>  
 比<sup>後</sup>從<sup>端</sup>短<sup>笛</sup>起<sup>順</sup>計<sup>之</sup>  
 又斗<sup>ト</sup>泚<sup>兩</sup>行<sup>ハ</sup>未<sup>北</sup>朝<sup>傳</sup>ハ<sup>ス</sup>又<sup>泚</sup>竹<sup>ノ</sup>中<sup>ニ</sup>各<sup>十</sup>千<sup>竹</sup>ハ<sup>也</sup>  
 也<sup>已</sup>ノ<sup>竹</sup>ナ<sup>リ</sup>是<sup>麝</sup>香<sup>ヲ</sup>ハ<sup>入</sup>ナ<sup>リ</sup>



甲<sup>乙</sup>之<sup>音</sup>次<sup>第</sup>  
 乞<sup>レ</sup>黄<sup>鐘</sup>調<sup>之</sup>音<sup>律</sup>  
 一<sup>下</sup>盤<sup>涉</sup>調<sup>之</sup>音<sup>律</sup>  
 工<sup>表</sup>鳳<sup>音</sup>調<sup>之</sup>音<sup>律</sup>

斗<sup>ト</sup>斷<sup>金</sup>調<sup>之</sup>音<sup>呂</sup>  
 比<sup>也</sup>神<sup>仙</sup>調<sup>之</sup>音<sup>呂</sup>  
 凡<sup>行</sup>壹<sup>越</sup>調<sup>之</sup>音<sup>呂</sup>



已斗鸞鏡調之音呂

上平調之音律

卜比勝絕調之音律

下言龍吟調之音律

十上雙調之音呂

卷已鳥鐘調之音律

笙調次第

以畫合八笛同音 以下為甲調上言以上為甲調卷以上為甲調上九以上為甲調十也

笙小五音笛穴樣

平調 八音 下十 角律 行 變徵律 一七 中比 元 工言 下九 上 變羽律 下無 十也 卷 上行 角呂 一七 變徵律 比 變徵呂 上言 卷 上九 八 變徵律 律

十音 行 元 高 一七 中比 變徵律 工言 變徵呂 上九 變斗元 八 下 變羽呂

行 元 角律 一七 比 角呂 工言 變徵律 上九 變徵呂 八 元 十 變徵律 十也

行 元 高 一七 中比 角律 工言 角呂 上九 變徵律 呂 八 十 十 變徵律 卷 變羽呂

一七 中比 元 上言 角律 八 變徵律 十下 十 元 卷 羽 行 元 變官律

比 上言 元 上九 高 八 角呂 十下 變徵呂 十 卷 元 行 元 羽 一七 變徵呂

工言 上九 元 八 角律 十下 變徵律 十 變徵呂 卷 行 元 元 一七 變徵律 比 變羽

上九 六 八 十 下 角呂 十 變徵律 卷 變徵呂 行 元 卷 一七 中比 變羽律 工言 變羽呂

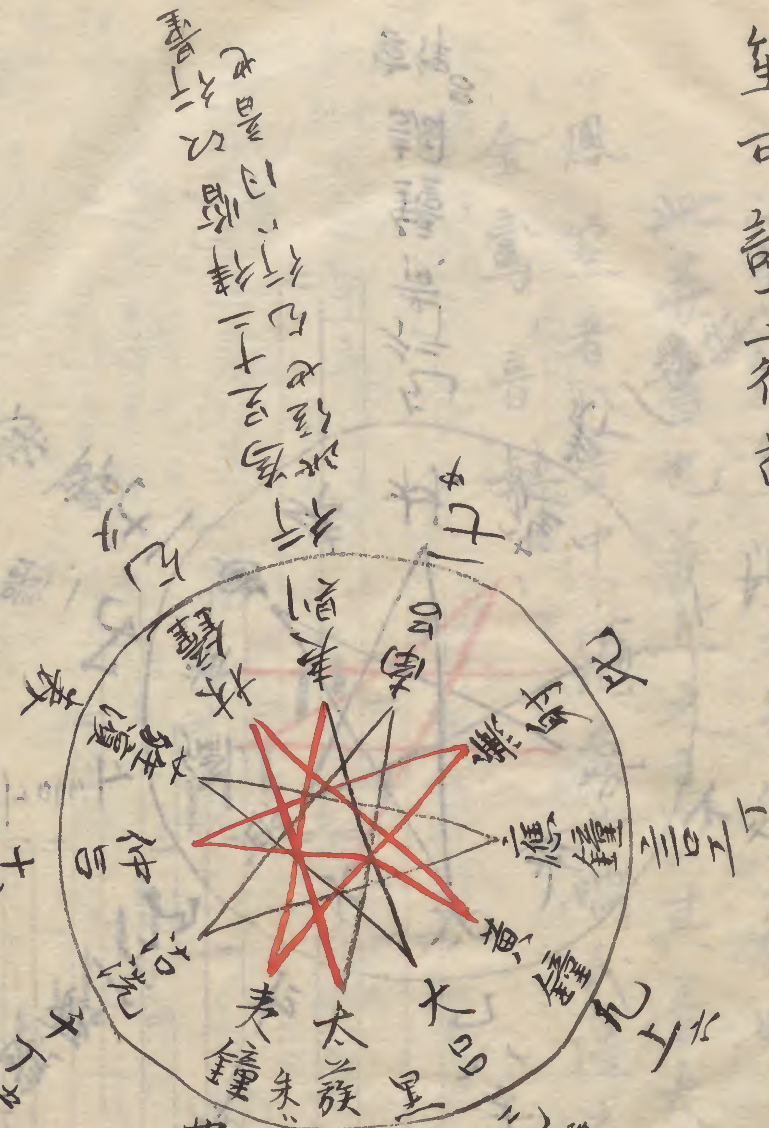
已上九之中卷為宮之時無徵音之故非調子數但依唐笙者已即斗也又卷之十音也若然者九箇調子皆備甲乙者也又也與十同音也







已上依唐笙九調子甲山具足圖也  
笙可調十二律圖



已上中御門大納言宗俊并中院右大臣雅定但以此圖記穴脉後讀之

樂星圖譜 孝經曰 車林廣記載

移風易俗莫善於樂 孟子云今之采猶古之樂也

子月黃鐘之律為宮從本律教八至林鐘為徽林鐘教八至大蕤為商大蕤教八至南呂為羽南呂教八至姑洗為角姑洗教八至應鐘為宮應鐘教八至蕤賓為宮故是謂之七調周而後始十二月之律人為八十四調之法大備矣 律呂隔八相生商畧

七宮屬土 七商屬金 七羽屬水 七角屬木

徽音屬火

高口同張 宮舌居中 羽居撮聚 角舌縮却

山徽舌柱齒

同云 礼書云

三十六簧笙大者十九簧小者十三簧象管在匏有粟



象或曰巢星

和云三十六簧一ニハナレトナセトヲウシテ云ヤ十三簧ハ我朝ハ不傳ノ末代三十六簧ノ筭アリト可思三十六簧ハ無事ト思ハ又管ノ面ノ形ノ故ハ云三十六簧教ナリトアリ只十九十七

立簧作法

凡調也ノ音ノ舌ヲモテ十ノ竹ニ立十ノ音ノ舌ヲモテハハニ立八音ノ舌ヲモテ上ヲタの上ノ音ノ舌ヲモテ言ヲタツ言ノ音ノ舌ヲモテ比ヲ立比ノ音ノ舌ヲモテセツニセ七ノ音ノ舌ヲモテキツニ立斗ノ音ノ舌ヲモテ行ヲ立行ノ音ノ舌ヲモテ券ヲ立券ノ音ノ舌ヲモテ十ヲ立十ノ音ノ舌ヲモテ下ヲ立下ノ音ノ舌ヲモテトヲ立トノ音ノ舌ヲモテシヲ立シノ音ノ舌ヲモテ巳ヲ立巳ノ音ノ舌ヲモテ凡ヲタツ凡ノ音ノ舌ヲモテエヲ立エノ音ノ舌ヲモテ一ヲ立一ノ音ノ舌ヲモテ凡ノ竹ヲ立ナリ

調作法

調作法 調作法 調作法

先管ヨリ竹ヲタク但長竹ヨリ是ヲタクヘシ除エテ青石脂塗イテイ早

差本續續蠟蠟ヲ立管但短竹ヨリ立キナリ次ニ面ヲモテシノ竹

ニ合横笛テリノ穴穴ノ音也也シ下面ト同音シヲモテセヲ調フ甲シ又シヲモテハヲ調フ甲

セヲ以テ一ヲ調フ甲一ヲ以下ヲ調フ甲下ヲ以テ言ヲ調フ甲下言ヲ以テ子ヲ調フ甲

日音也又言ヲ以テ一ヲ調フ甲一ヲ以テ券調フ甲次ニハヲ以テ行ヲ調フ甲

行ヲ以テ一ヲ調フ甲一ヲ又行ヲモテ凡ヲ調フ甲凡ヲ以テ上ヲ調フ甲但

秘藏口傳云凡ヨリ猶今截少調ナリ上ヲモテ十ヲ調フ甲十ヲモテ

比ヲ調フ甲本ニ無ク巳ヲ以テ斗ヲ調フ甲斗ヲ以テトヲ調フ甲トヲモテ比調フ甲調フ甲

今寒温用意

アルヘシ一説鼻ヲモテコレヲ聞如此ノ口傳シケシトイヘトモ委曲

ニアタリス已也ノ兩竹ハ今朝舌ヲタテス六調子ニモ子并サル故



ナリ斗トクニテ竹ニライテハ未代名ヲ関コトナシナセノ外ノユヘニ  
況ヤ又用ルコトヲモヤ而異城龍吟鳳音鸞鳥鏡鳥  
鐘斷金勝絶等ノ六調子アリ件ノ調子彼四竹ヲ用トシ

又説笙ヲ調ル次第

シカシラトシテ先箇ニアワスサテセウシラフ次ニハヲシラフシニセ  
ハヲヨクノクシラフセテ次ニセウモテ一ヲシラフ其ニ下ヲアワ  
スサテサイウノハヲモテ行ヲシラフ其行ヲモテセウシラフツノセウ  
ヨクノシラフハツレハサイウノシニアウセサテ次ニセウモテセウシラフ次  
ニセウアワス次ニ上ニアワス次ニ下ニセウアワス件ノ下ニ言ヲア  
ワスエラ言ニアワスエラモテ奏ヲシラフ次ニウシワノ非ナラハセト  
言トクアヒタノ音ニシラフルナリ

併上聲次第

裏竹細長穴ノ名ナリ嫩太者并上高下長短ヨテナリセ  
八寸三分ナリ但し并上ノ下ト舌ノ上トノ際ノ長也 一正丸已シト下十奏行斗七比言上八千  
也寸 内裏蚶氣繪ノ并上ノ寸法ナリ也ノ竹ヨリセウノ竹  
マテ合次第増進ナリ也音於細太者由并上高下也  
又云并上ハ太キ竹ノ本ニアケ細キ竹ノハスエマクルナリ  
高ニ舌立ハアウクオホケナルヲ云エ丸一下レ七行骨

笙 笛 相竹 ツアミ人輩ナリ

声ヲシヤウ大畧也

千下レ丸 十上レ七 下一 七言 上七 下七 一下 七千  
八千 七千 言千 七千 七千 千千 上千 七千 八千 行千 七千 五千 七千 七千



比エ

相竹畧頌曰

塞千十上下言七一七八エ券凡イイ乞上乞凡上一竹

師説云ク下一竹ハ相竹トイヘトモ一ホヲ吹トイハル處ニ相竹ハ吹ナリ冬ク處ニハ不吹ニ氣三氣十ト信處吹ナリ一吹ニ下ヲ吹下ヲ吹ハ言ヲ吹

笙竇スクロ傳

ハ子テ聞太テレハサキラトル細ケレハ本ヲトル太ハモシフトル細ニハヲモシラク

サキモト間

カキ上カキ下細ケレハカキアワ太レハカキサク

管ニ立ツ吹時ノフナリ

刀ヲ指入テ面ハ子上ハ子ヲニスルニナリセハ舌ヲハナチテ子ワキノウラヲクルナリ吹ニナリスレハ本ヲウテテス一行ノチナリハ中ニヲモシラクシラフルトキフトクテアワヌハラトキコエホツクテアワヌニハナトキコエ

一ラナリ 和云當時調様前注ト大畧曰之古物ナレトノ竹ヲヌクフク息ニモヨク心ヲソヘテシワカニスキサシマスニ折ヤスキ事ヲ可シニヨク思オラスハライトテ雉ノ尾ハ子ヲサキヲキリテ竹ノ細サシテ入タル也スラ息ニテホコリヲ可辨細糸ニテヨクカラニ付ニ作中ニトニリテナルハコハ煩シキ事アリ又ハ子細カトニリテ音ノヒヲクフトモアクテ出タル也アリサニ古蟬ヲ挽金ニテヤキテトリテ簧ヲスクニスハナルハテ蟬ノハシラヌ程ニヤキカ子ヲヤキテ可付シシタノ上ヲシタク下指ニテウヨク押ハシ一内へ入ナリ舌ノモトヲウヨクヤセハシニ少付ハイウルコトアリアラケキコトヲ惣シテスヘカラスト云コト一ヨレタ也青石俄ニスリテコシワレハアラクテワロシスリウケタルヲ一ヨレタ也水サワ入テヨクスリヲコシテスルニ右ヲコク筆ニ付テ



ラウ スレハカケテラウのルナリ ウス トシテホシテ吹キケテハ又ヌリ  
テラク 三度ばかりヌレモ又ヲモシハ上ヨモシハ耳白ノ鉄ヲ火  
コトヲ ノ上ニヲキテヤケハキイサクフキイワルヲカナハサシニテトリ  
テコソケヨトスナリ 中ハス、ヲキリテ板ノ上ニ端ヲワフキ  
テ其上、ス、ノカ子ヲ、キ、テ 懐 金ニテヲセハコマカ  
ニ玉ノヤウニクダケテイワルナリワレヲラウワキノフクニ輝  
ヲ入加テ集テ入ナリ 簧太細ニシタカイテ二用し、簧ヲ  
下品ハ 今ハ風雨アラサル目ノシワカナルニ 相對テ 靜ニ 調へシ一管  
ナリヲ 可然ウツワモノヲ調ステレラ本簧ニ人ヲ又ヤ生ノヨキ  
用テ 子ノ 調タルニ吹人へシ本簧ハカリニ人ニハキカウ事アリ  
事也 本簧ノ吹様冬ハカハニテ 簧ニ各々ニ丑分ハカリヲキテ  
カシトカモツメテ吹ヒタムハキ要ナリコレヲ春季ニテ  
用し 夏ノ簧ハハニテカステレ 唇ニテクニテ 栗ニアテヌ  
シテクムハシコレハカラセ要ナリ秋季ニテ用し大方此  
事為上所尋アルニキ時無存知ナレト申サハ希代  
ノ者辱ナリ答可申事 如何ナ 事ナレトモ覺語

夏冬、ナクテハ曲事ナルヘシコレハ冬ハ陰ナリ陰ハヨモキ物  
ニレハクムヘシ 陽ハカルキモノナレハカルヘシ 陽ハ夏ナレハ如  
此一分別此事如地ニレハ各ナレトモ家ノ口傳ナリ惣テ笙  
調メ吹試ルニ殊ニタシナムヘシ口ニ温ケフモノアルニ吹ケハ石  
取分シメリヌレナリ魚ナレトノナマクサキ又土幸ノ類ナ  
ント常ニ不可食ウツリ香以外コトナリ私ヨク調テ  
進上セハアタラシキ布帛ヲ水ニヌラシテロゾノコフヘシ  
御前ニテ仕ハ不及カ其モアタラシキ帛布ヲ懷中  
心人ニ 傳シモ 心ハ勿論失念アラハ装束ノ袖ナレトニテ忠タレ氣也  
ニテノコヒテ可進上如地事無存期地一事ニテ高瑞  
心ヲ委細ニワカヒテ道ノ者ハ奉公申ヒ新簧ハハシタ  
ノウラニヨク石ヲヌレヘシ

簧ハ金之事 唐金ナルトウテ古人申ハイロシモヲナシトテシヤ  
ウトフ音ヲ不用金ヲトリテシタラステハヒ、キナシ折ナラ



後教

レナレトハ本ヨリ聲ヲ發ルタメニシタル物ナレハヤワラカニテ

簧ニ成ヤスク音色可然由甲是ハ在義也

柀<sup>初抄ニモ</sup>樂ノ面白カラスハ笙ノ時ノ音ニアワヌトキ事ナリ萬ノ

モノアレトモ先笙ヲナラスエヘナリサレハミラム竹ヲヨクイシレ

ヘキナリ笛算篁箏琵琶等ハフクトクモホワクモナシヤスシ

笙ハフクト不叶故ニコレヲ本トス餘ノ音ヲアワスルナリ

口傳ニ云ハホノ早クヲホス時ハヨワクトスハヤメト想フトキハツ

クトラヘテ吹ト云ヘリ打物ノカキアケカキサクトイハレ同シ心

ナリ又始ノイキハアラクバインストイヘリ又前ニ注侍ルウ

カフト云事アリ此道ニ入ラテカシリカタ息入事ハ前注

仍畧之

私云此字之事今上御誓古ノ時申上侍ノ始テ申上

又敵間達事ナリ字者瀬ト書也大方譜ニ不載

兼秋自筆撰十三帖譜ニ不書ノ可秘第一ナルニ受

師説ス難知事也代ハ帝一人ケラテハ存事ノ内也

今度始テ申上事内也

古人ノ記曰物語次第不曰ニ注シ

或記云筑前守兼俊殿上笙フクヘキニヨリテ昇殿ヲ

エルナルヘキヨシサタアリケリ先心ニミエケル日キサキユラ

然テフカセラレケルニ用心ナクシテフキイタミケルホトニ管ノ中

ニヒラクモノアリケルヲ唯ニノミ入テケリムセニエツキニトヒ

ケルホトニ君モ臣モワラフセ結ノハラワタヲタチケリヲホキ

ニ鳥呼ヲ表シテ昇殿ノサタモトテリニケリカレタマシテア

レハフトニライテヨクノ用心アルヘキコトナリ御物ノツ子



ニモフアレサシハ先小息ニテコロモルヘシ  
中院右府雅定出家ニ給テ後妻子ノステ、フカクフモリ井  
タニフ事ナトハナカリケル冬モトノ家ニヲワシセシナカラメテ  
タク清淨ニヲコナシテソスニ終ル筈胡飲酒ノ由ヲキワメ  
然ルニニアラヌ公事ノカタクラカラス家ノ説タシカニ傳給ケレ  
ハ宗、治九府モ作法ナト申アワセラレケリ 國文ニハ 勅問ニモナラ  
ツカリ終ケルナリヤサシケル事ナリ 應保二年五月八日  
豊原時秋ヲメシテ盤渉調ノ調ニヲフセテノ午秋風ホ  
ヲ敷及フカセテ我モツケフキ終ケリ 廿二日アリテイ  
トニ病モフワセサリケルニ廿七日持佛堂ニ入テ佛前ニテ人ニモ  
ハカシエリモシラシ給ニテウセ終ケリ 時秋ト共ニ筈ヲフキ  
終ケルハ東近ノ樂ニツホシメシヨク終ケルニヤトソヨク人申

アヘリケル秋風、西土來近ノ事ナリ 秋モ西風モ西  
ノ音故ナリ 私云此事不審殊未代アルニキ事也コ  
シモ前生ニ法花經ヲ持テ人ナリト可知之  
又云朝成御号三条中納言能筈ヲ吹小治田有秋カ者子也  
延喜五年正月廿二日御記云保忠筈ヲ吹ニ曲調頗ルナ  
ラヒナシ橋皮ト云筈ヲ終ル筈ハ故太政大臣昭宣云 弱冠ト  
キ兼和天皇筈ヲナラハセ終ルハ夕人ニ終ラトフコナリ 其後  
彼舊跡ヲ尋テ宜陽殿ニ天終之云 此章前、注  
諸記ヲ撰ゴテ書シ  
或記云筈ノ竹ヲ切ル事ハ一月白黒三十日内黒月ニ切ヘキナ  
リト云リ  
或秘書云唐朝長樂寺ノ鐘ハ祇園精舎ヨリ傳タル鐘ナ  
リ鳳凰管ノ音アリ 四方三十六里ニキコユル也



又云ッ唐ニ浮丘公ト云者アリキ笙ヲ吹テ嵩山ノフモトヲス  
クニ目出ク笙ヲ人スル物ノアルカ王子晉ノフエテホヘケレハ  
アヤシキモノカトト思テイカナル人ト問ニ我ハ王子晉ナリ  
仙人トナリテ天台山ニアルナリト云ケレハ始テ其曲ヲシリテ蔡  
山嶺ヨリシテ洛水ノホトリテテ笙ヲアワセテアリサテ其洛  
水ニシテ仙人ナリシ事トモ委語テ後浮丘公カ云ク申カ又  
アロタテツル事ハヒキヤト申ケレハ示伎ヲトノテ篠山ノ  
フモトノ月ノ明ナル夜キタリ然レハ必ス蔡リアワセト約束シテ去  
又ナテ後ニ人舞人ヲトノテ篠山ノフモトニワタリタリケレ  
ハ約束ノコトクアリケリサテ其處ニ王子晉カ形ヲツクリテ  
置クニナルニ早飡ノトキニハ件ノ聚ニシテ祈ルナレハ必而フルトイヘリ  
名物等物語 此方不向年紀前後ニ有相違  
見出し同出ス事アリ

其男繪ハ竹圍ハ七ニテ太竹ニアラヌソヒウカナル程ナリ皮ハウ  
スクタヒトヘヲヒキニワシタルヤウニテ竹圍ノ事ノ外ニ廣テ竹マ  
以外ニ堅ナリ良笙ノ相カヤウナルヘキナリ  
又云堅竹ノ竹圍狭クツリタル笙トイヘリ前ノ説ハ相違歟又云  
大キサキエ下ニ久形ノ一寸許ナルヲキサミタリ上ニホウツウヲ  
ソキサミタル物ノ形ヲハ竹ヲノコシ其外ヲ竹ノ皮ヲサケトリ  
タルナリ帯ヨリ下ハ黒クテ帯ヨリ上ハ新シキヤウナリ吹ハ年  
ヨリトヒラツルヤウニテ竹ノ赤ノハラノトハタラクヤウナルナリ其  
帯ハ二寸許サカリテ廻タルカ吹シメラレテハ帯ノキノ竹ノ首ニ  
アカルナリ心得ニ吹ヘキヤ如常笙始メ息ヲ荒ク吹入レハ吹  
吸息ニ鼻ヨリツメタキ風ノ入テ吹息盡テフカレサルナリサレハ  
始ヲコレヲヘテ吹ヘキナリ



江談より

又云二条殿ノ小蚌男繪ハ口カノサキニテカキメルトイヘリ  
江談云小蚌繪ハ高名ノ筈ナリ一茶院ノ御時此ノエ矣年  
仍カタク祈請ナラレ間五七日アリテ神陽殿ノシタニアリ  
見付テ御覽スルニ空ク以朽年仍寸ニ切年其後尚其色  
羨ナリトイヘリ  
又云キサキニ六累代ノ寶物ナリ神靈アリトイヘリ而ニ保延  
四年十月廿四日土御門内裏ノ焼亡ノ焼年

蚌男繪黃曆事

堀川院神時寛治七年七月十四日始テコレヲカヘラルソレ  
ヨリサキハ此古カレタル例諸家日記ニ不見ト云リ上古  
ヨリ不改テ古キ古ノニニナアリケルカ公里時忠時元ホ勅  
ヲ奉リテ藏入取テコレヲ調フ出納ヲ召仕ト云ヘリ古カハリテ

後音色失年又至上驚ヲワシテ此事ヲ同セ終ニ時元  
敢テ尤右ヲ申サス公里申テ云新キ古ノニナワサルホトノ事吹  
和ケラレナム後本ノコトクナラムカコレニヨリテ藏人ホ終テイウト  
ナクフカセラレテ決ノ年ヨリ本ノコトク音勢出束リタリケレバ  
主上公里ヲ殊ニ御感アリケリ其次ニ羨作ノ下向ノヨシヲ  
羨シシハ一物ナリ船ノ慮外ノ事モ恐アリ陸地ヨリ下向ス  
ヘシトク勅定アリケリ道ヲ重ク思食々事タメニスクナキ御  
事ナリ

江談云否不替ハ是筈ノ名ナリ唐人コレヲウルキ石カワレト  
イフニイナカヘシトイヒケレハコレヲモテ名トストイヘリ  
禪定殿下ノ作云法華寺ト云筈ハ名物ナリ此筈ヲ華  
山供養ノ行道ニ樂人久延カ吹ケルニ笛モ全クナクナリケ



リ件ノ笙能算カ傳テ後堀川院九テ更九ニツクラレ早  
又云後教訓抄云新更九兩笙ニ十豊原ノ家アリト云ヘリ先カ流ニツ

クウルヤ當時キコヘ又此事不審當家注名物ナシ  
新更九時元和唐ノ竹ヲ比テ更九ヲ移シテ作シ其音太妙  
ナリ藍ヨリモ青キ躰ナリト早後ハ傳リテ中院ノ門府雅定

許アリ

小唐笙ハフルキ名物ナリ

菊丸ハ大納言隆季家ノ笙ナリ而テ隆保朝臣傳テ後不

慮ニ梶井宮ニ進ヌトイヘリ

懐丸ハ大宮三位重家秘藏ノ笙ナリ懐中ヲハ十タス故トス

下腰一管ハ先元カ笙ナリ公直傳之

袖丸寺治丸大臣殿ノ笙ナリ凡竹ワツカ九寸道衣束帯

ホハ袖ノ下ニカクサレニカタムナリ仍名トスハハ

或記云天曆辛申元興寺ノ寶藏高名ノ笙ヲ終理シ

ウウリケルヲメサレテ義作カ仰講經ノ座トケルニ至上置ヘ

クイナヤト仰尋アリケリ義任申テ云ク彼カウラント申サレ

ニ一倍シテメスヘキヨシ申或詰或不詰其名存余可倍歎

又雲和ヒト云

古唐丸ハ高野御室ノ御時仁和寺ニ大先達アリ仁仙房

ト云大峯古屋ノ宿ニテコノ竹ヲ切テ御座ニイラス此竹ニテ

ツクルニハニお名事シカナリ

達智門ハ高名ノ笙ナリ此笙ノアタヒヲミテ其用途ニアレ

件ノ門ヲツクル仍此号アリ古記載

私記云右ノ説真也八幡殿御代ニ出現器ナリ傳云六



七十歳ハカリノ法師此器ヲ持テ其家ノ器ヲ所尋アルヨシ兼  
及間望一管持參申ト申御覽アリテ時光ニセラル取寄  
間私宅ニテ見之テ無雙ノ器ナリイカ程モ可申ニアタイヲ  
カキラスメシトメラルヘシト申仍代々尋此法所ニ萬貫  
ナラハウルキヨシ申義家思食様タモノニアラスワラハス  
ヨシ御定アリテ要脚達智門ノ爲ニラセラルニ萬貫ヲ  
可被渡由ナリ然ハ器ヲ進置ナリ要脚明日一取可參由申  
入テ去ヌ召返シテサテモ此器ハタレカモ又イツクヨリ乘ソト同  
終ハ幡磨書寫山ヨリ持參シ侍由申テ歸ヌサテ明日モ取  
不參其ハハ要脚ヲトラス不思儀ノ事ナリトテ時光ニ被  
係付テ書檢ノルノ人ツカワシニ此事ヲ被尋處更ニ當  
山サヤウノ器ナシ又持參僧ナシト申ヌサテハ八幡ヨリ終シヤ

ト思食ヲ其要脚為出終理則ハ幡宮ニテツクセ終則ツク  
ホ凡ト号シ給フ武勇ノ器被用ヘテ悉天下ヲ靜終御累代  
ノ器トシ終トシテ音声スクレシク  
又不置凡ハ豊原光元カフエナリ時トシ不道之故以テ俗光元  
カ不置凡ト云  
或記云ク昔漢家ヨリ青石ヲ三ツ渡ス其内下魚ノ右一  
時光カ先祖ニ終ケルナリ御物ノ右ハ魚クテ此終ル石ハ日出キ  
ナリト云  
續教訓抄云  
或人ノ談云時光公家ヨリ青石ヲ預終メサレテ初樂ノ時  
ハ用シ死去ノキサミ嫡男公黒ユワリ早又爰ニ二男時  
元新申テ云彼石大畧公物ノコトシ御年ノ時君公里ノ  
法障ノ出来リタタハ國如及方彼ヲニ破レテ兩人ツカク



ニト思ヒ即 勅許アリテ破ニ處ニ破年又其内ニ  
里ニ破ヲ終年光元カ代ニ傳之持し時元一破ヲ結  
ニ利秋養子時秋カ年ヨリコレヲ傳トイヘリ光元カ  
持トコロニ果定テ分ラ子息与人ニユワラムカ公秀公直  
相當ナリ但シ今モコレヲ不傳サレ

又云一切管絃ノ器金截タル音ヲ奏トスルナリ而シテ笙ノ  
コソハラシト鳴ハ表ナレ但シ其モ金截ラ聞ルコソ目出ケレ  
又云笙ノ息ニヨルトイヘトモ又笙ノ一物ハ別ノ事ナリ出雲ノ前  
司隆頼カキカケニ終ハテ吹ケル日ハ息ヲホカクシ人モ  
笙余ク聞クコソアリケレ彼隆頼極タル少息ノ人ナリ  
又云白川院御在位ノ時公軍ヲ召ラ大抵白加波ト云御ヲ  
エニヲ終ラ勝芳ヲ定押キ見係アリ公里申ラ云勝芳

ハハス只同程ニテ作ト申作ニ曰活物ニテ持テ政長ノ許  
ニ行向テ定申シムヘト云公里ヲ使トメ彼高ト向ラ  
此由ヲ申政長教度コレヲ聞テ全ク勝芳ヲワカストイヘリ  
公里何カ答テ曰ク御前ニテ如此申々而テ猶御不審  
ニヨテツカハカルナリ時ニ政長答ラ云ク天氣イツレタモテ  
勝ト思食タルツ云里云ク大抵勝ヲホシメセハコソウタカハ  
シメ御スラト申仍政長大抵ヲ勝レタルヨシ奏セシメ年  
又天氣符人ストイヘリ 其後堀川院ノ御時ニ公里ヲ召  
テ月ク勝芳ヲ同メ終フ申處前ノ如ク取ニ一物ニ大抵ハ  
偏ノ音勢ナリ白加波ハ音勢ハ大音ナラストイヘトモ誠ニ  
物ノ中ヲ通テ清ニ音ナリ大抵ハ音勢アリトイヘトモ白加波  
ニ相比ニ白加波カ音勝テ聞ルナリトイヘリ尚白加波勝ト



申サレムルニ而レ勅乐時律物其歡樂人終公里此時  
白加波ヲトラス太丸ヲ終天氣日比ノ白加波ヲ執スレ太丸ヲ  
トルイカシ公里陳申云ク白加波ハ竹ノナラヒナキ一物ナリ仍  
勝トワ申ナリ但レ太丸大系ノタメ音ノ善悪ツイワス音勢  
ヲトルニナリト云  
禪定殿下仰云ク笙ハキサケニメラタカリシモナリ其  
ニモヲトラスヲホレハ太丸ナリト云  
時元語テ云ク武吉カ鋒ニ下サ笙ノ管者ナキヲ持来テウ  
ル武者問テ云ク其直イカハカリフヤセ云ク直法ヲシラス只  
終ハラニシタカワシト云凡縮ニ足ヲアタフセ悦テコレヲ取ラ  
去年武者コレヲミルニ誠ニ無雙ノ笙ナリ仍其直法ヲ  
加ハタメニ件ソセヲヨフセ笙ヲ返サントスルノ心得テ身命ヲ

ステ、ニクルヲトカクシテ召返セリセノ云上獨ハ思カヘニセ又  
モノト云テ頻ニウラム武吉カ云クカサムトハアラヌ直ヲナサ  
ムトヲナリトイヒテ今ニ足ヲ与年又セ悦テ去年又件  
笙調テ後誠其直法ヲシラストイヘリ己ニ御物ナリテ  
仰リテ院ニアリトイヘリ其若クホツカナシ可尋シ

和云古事未代ニアリカタキスノ心ナリ今世ニ如地ノ物  
ヲタヤスクカイトリテハ我々名ニ云テ悦コトシキリナリ大  
方在ニアル者ノ誰モ利潤ハ大切ナルモノナリ自然服食衣  
ノ類ハ久不用コトナレバヨクニヒトルモ心アサレ又ハ上庭ノ草  
花ナレト鳥獸ヌキテカフ人ノアナカキニイヒ人ヲヨクカセシ  
キハカシテソルシカラス其カエ他事ニツイテ其人ノ心サテ  
ニユル者ナリコレヲ代ニ傳フ上ノ御物ナリテニ重寶トイワ  
レシ類ヲイカニウル者又持タル人不知メタモウレウレキ  
ナント云テ云テウシテ其物ノ代ヨリモヒレシカクニガイト



り又ハイタツラ、口人、取望ナレトシテウレシク終タルナ  
トハイワスシテ目カキカヌ人ナリ也。ホウケタル人ナリ  
ナト云テ我トクヲ云人アリアサテシキワサナリ 殊ニ笙  
笛ナレトハ竹、アタイヲシツケテモナキ物ニテ只音色ノイ  
カメシキツ上中下ノシナシテ在、ウリモカイモスルモノナ  
リ、誠ニスクレタルヲカイトリテ永ク家ノ重珍ニナス、一ハ  
高名ナリ、若身ノホトモアリテアタヒヲカキラス引出  
物ヲモシ侍ハ其器ノ名譽ナル、若身ノ徳ナクハ其  
全ニ心中ヲ云キカセテ一期生間其息ヲ不テ忘、如  
此ノ心アレハ家ニ冥加アリ、道ニ至テモ不慮ニ高名アル事  
アル、一ハ高心サレノエウ、無理ナラサルヲ見習、一他人ハ  
トモアレ子孫ノ者必如此事忘、ツカイ正直ニコトヲス  
ス、一ハコレハ随分ニ教訓ナリ、

神祇伯頭仲ノ云ク 二条殿ノ白丸ハ極テ同キ笙ナリ 御遊  
ノ時終ラ吹シカハ誠ニ息カタキ 笙ナリ 業内ヲシラナル人

ハコノ笙トソ志サスヲ實ハ唐笙ナリ 節高キ笙ナリ  
節ハ廻テ同高サナリ

公里云ク時光カ申しハ件ノ白丸ハ、る麗ノ竹也代ノ末ニハ  
申アヤ、リスナトソ云ケル又云武吉ソクノ一丸ハ、終麗大夫  
後綴、終長ノモトニアリ、此笙リ白丸ニ相ニタルト、

件ノ笙、所賀ノ借物ニテ時終終ラコレヲ吹、其ノ古ヲフキ  
ナリ、年時元コレヲ見テ不覺ケ、コソミケレ、實ニ不覺  
ノ事也

二九 輔仁親王笙吹、千里、子ナリ 但一竹ハ尚白トイヘリ

私記云永正六年秋、比將軍家一管ノホ窓ヲ被  
召置後、希フ召テ是ヲ見セサレ、於御前是ヲ并  
見ス、言語道断御窓ナリ、可持由申上、篋古物ニテ  
一向ニ不吹、試新キヲ云立替テ吹、試度由ヲ申上



右ノ由被作下然ハ私取持黄今度南都行元ニス  
カシタルアリ御器ヲ被下ニ調申致由申上則云出  
間私宅ニテ調し仍竹ノコワセ侍ハ字ヲホリワケタリ  
能ク見シ者公里秘蔵ノ器ナリ永ク家ニ失ハカラフ  
申書付不思儀ノ由申上ヲ調畢テ進シ 公方様  
ニ御自愛ノ由被作下音勢勝タルコト名物ヲトルハ  
カラス此器ヲ先中御門大納言宗経ニセ御申アレハ  
近比御器ナリサレトモ表ノ竹ノ別ノ竹ニテ色替ヨレ  
御申シカニ麻ナレハキカト御沙汰ナリト畢ニヨウ  
見侍ハ節モ同スヲヒモ同シ又竹ノウラモ同スナリ  
只面ノ色ナカキタリ己ハ音モ同カレト存ナリト申上  
侍長ニ私記録ニセ及見タル取アリトナリサレトモ卒  
介ニトナ畜座ニテハ不申イカサニ右ノナキ事ハアレセ  
込分尋ニ申由ヲ申上畢是ヲ畜人テキコシメテ

獻覽アリタキ由御被作下由ヲ申上處ニ召進上之  
以外ノ御穀感ナリ暫ヲカレテ可被遊由御申アリ  
サヤウニ思食サル上者亦御事也イカヤウニモ召召  
置換統秋ヲ申沙汰由以穀河云作下其作則可  
披露申由申上折節御誓古ニ被召應同躬儀仕  
將軍家御申上旨申上サテハ神妙ノ御申ナレトモ御  
器アマタモ無御座ヲ無骨ナル程ニ思食由勅定  
アレトモ統秋イカヤウニモ申成テ御物ニ成致ト作  
旨重ク申上ク同サラハ御返シニ一返御秘蔵アル  
ヘシ名ヲ付名物ニマ又由御申ナリ仍私カ記ヲ  
擇石ニ注取明白ナリウタカウヘカラス此器者三宮輔  
仁親王御器愛思ナリ竹一百ニト侍不審ナキ所  
ナリ則記所上意御覽アリテ不思儀由云作亦者  
也門裏ヘモ此旨可申上ト被作下御御月次ノ以樂  
時以中御門大納言殿申上右御自愛ノ事擇申入



神妙由多作下家面目不<sub>レ</sub>過<sub>レ</sub>此記者續教訓抄也可作可貴之

時元云笙ノ息ハ亦<sub>レ</sub>歲ニテ定<sub>レ</sub>ナリ而<sub>レ</sub>其已前ニ横笛及  
算策ナトラセメ<sub>レ</sub>カスルハ中ノ<sub>レ</sub>息カレ<sub>レ</sub>スルナリトイヘリ  
後一條院ノ御時雲客貞長笙吹ノタメニ御寮中宮夜ノヲト  
ニ御ス貞長ヲ召テ笙ヲ吹ヘキヨシ勅アリ仍<sub>レ</sub>アサカレイノ  
御座ニ候テコレヲ吹御感アリテ宮ノ御衣薄色立<sub>レ</sub>ラ貞  
長ニ給<sub>レ</sub>フ即給<sub>レ</sub>テ家ニ歸<sub>レ</sub>テ時光ヲ召テ我妻ノ衣立<sub>レ</sub>ラ  
モテ時光ニ給<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>

又云時光ハ時信カ弟子時信カ實子家ノ説ヲ相傳ストイ  
ヘトモ弟子時光<sub>ニ</sub>ヨ<sub>レ</sub>ス仍<sub>レ</sub>關東ニ遊失<sub>レ</sub>早  
又云時光ハ大聽敏ノモノナリ時信ニ隨<sub>レ</sub>テ曲調ヲ傳<sub>レ</sub>トイヘトモ

全ク委曲ノ口傳ニ<sub>レ</sub>ヲヨハス只聽敏ニ<sub>レ</sub>惹<sub>ク</sub>聞取ナリ公里ハ  
キワメテ遲鈍ニ<sub>レ</sub>キ、トル事アタワス只聞テ我ヤウニキントトセ  
ケレハ<sub>レ</sub>ウルトコロナカニ<sub>レ</sub>ヲヨハス眼<sub>ラ</sub>笙ヲステ、繪師ニナリケ<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>時元  
心ニイ<sub>レ</sub>テ唯人ノ吹<sub>テ</sub>キニケト云ケ<sub>レ</sub>ハ又笙吹<sub>テ</sub>早<sub>ニ</sub>ナ<sub>レ</sub>ハ公里鈍根  
ニ<sub>レ</sub>テ委<sub>ク</sub>習<sub>タ</sub>シ<sub>ハ</sub>人ノ師ハ神妙ニ<sub>レ</sub>ケ<sub>レ</sub>ルナリ

又云時光武吉則光公里四人一時ノ笙吹也 勅樂ア  
ル時尤<sub>ニ</sub>時<sub>ニ</sub>先<sub>ニ</sub>右<sub>ニ</sub>武<sub>ニ</sub>吉<sub>ニ</sub>也而時<sub>ニ</sub>先<sub>ニ</sub>早<sub>ニ</sub>世<sub>ニ</sub>ノ後<sub>ニ</sub>宜<sub>ニ</sub>音<sub>ニ</sub>ヨ<sub>レ</sub>テ上<sub>ニ</sub>藤  
二人<sub>ヲ</sub>超<sub>テ</sub>公里<sub>ヲ</sub>尤<sub>ニ</sub>ニ<sub>レ</sub>立<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>是其氏<sub>ヲ</sub>賞<sub>セ</sub>ラル<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>ヨ<sub>レ</sub>テ也公  
後ハ公里カ一男タリトイヘトモ最末ノ笙タリ<sub>レ</sub>口<sub>ヲ</sub>シ<sub>キ</sub>事  
ナリナ<sub>レ</sub>テ公後カ子先元ハ明<sub>ニ</sub>暹<sub>ニ</sub>已<sub>ニ</sub>講<sub>ニ</sub>アイ<sub>ニ</sub>テ横<sub>ニ</sub>笛<sub>ヲ</sub>モ<sub>レ</sub>テ  
渡<sub>レ</sub>傳<sub>レ</sub>タリ

又云公里時忠<sub>ハ</sub>又<sub>ニ</sub>其<sub>ニ</sub>様<sub>ニ</sub>異<sub>ナ</sub>リ<sub>レ</sub>公里ハ面白<sub>ク</sub>マ<sub>レ</sub>シク吹<sub>レ</sub>時



忠行多。瞻辛次。兩人吹ヤウ相遠シタリ

又云時元ハ先公里ナラシ次ニ時忠ナラフ時忠カ荒キ取ツヌキ

ステ、公里カ直キニ物ヲ加テ吹ナリ仍時光ハ公里カ流ニアラヌ時忠

カ流ニアラヌ別頭ニテアリケルナリ

又云時忠ハ篁竹一筋ヲヌキスニ吹ニヌカサル時ト同シヤウニ音

勢ヲアラシムル也調子ハ風情ヲ吹リトイヘリ是調子ノ法ニア

ラス又アタラシク調子ヲ撰テ三宮ニ進ヌ恐ヒカキツウトイ

ヘリ是彼大ナル過也

又云或人時光ニ同ラヌク公里ト時忠ト勝劣イカム時光各

ラ云イカハ初ヲ折ムト云時人是ヲ聞テ會スルシテ云公里ハ

四十余年又ソヒテナラヘリ時忠ハ幼少ナリトイトモ大暉敏

ヲ愛シテ云歟

又云時元ヤ人調平調ハ公里ニ習ケリ太食調ハ時忠ニ習也

又云時光カ才子三人也伯康資主筑前守兼佐刑ア兼源

義光也而ヲ時光カ云ク代ハ赤人ノ師トシテ善悪ヲ聞知シハ

康資也殘ノ輩ニテハウケヌ是傀儡ノ笛トフ申ケル其ハ

故ニ師ノワシヘナル午ヲ意略ニ次也シカリトイトモ康資ニモ

入調ヲハラシエヌヨク秘シケルナリ

修理大夫行宗

又云時光カ篁ハ三ヲ説アリ一ハ公里ハウケル既常ニ云ク

春ノ柳ノ如ク吹ヘシト云ニニ時忠カウケル説常ニ破アトリ

テ格子ニ扣カ如ク吹ヘシト云ニニ侍從宰相ニウケル説此説ニテ

イテハ公達ノフカセ終ヘキヤウ也云

昨説云ク中院云ク我篁ハ本意ヲトクル事アリ堀河院ノ

仲時本院ニ行幸所遊アリ仲苗始度ナリ政長釣長所侍



讀トシテ笛ヲ吹琵琶ニ条調白殿 箏宗後卿和琴中宮大

夫師志 算策 敷家 今日 繪言ヲ奉ケ箏ヲ吹先達宗忠

有賢ホソヲキケカラ後進ノ身トシテ清樸ニ應ス豈面目ニ

アラスヤ其比政長云ツ多年殿下ノ箏ヲキクコトナシ今カク

ノコトキノ箏イテキタレ奇特ト云ヒトイヘリ

又云ツ公里常ノ語テ云ク調子ハ座ナキコトナリ時光ニ四十年

フロテナラウトイトモ全ク子カラヲヨハサルコト等ヲシトイヘリ

又云果カ云ク箏ノ調子ハ十年ニ吹得ルトイヘリ而シテ時忠ハ六年

ニ調子ヲハ習也故院ノ作ニ云時忠ヲソロシキ男ナリ六年

ニイカテカコシホトニ調子ヲ習セトソ作ラレヤルサレハ調

子ハカキリナキ大事ナリ

或秘口傳ニク箏ノ調子ヲ吹ヘキ事タトヘテトリテアスセリ

平調ハ 鐵木如有銀校金葉之可吹也

盤涉調ハ 秋野萩女郎花如風吹敷可吹也

一越調ハ 以金沙石如打金鼓可吹也

雙調ハ 楨柱如欲登可吹也

黃鐘調ハ 山河水如通石間可吹也

大食調ハ 楨屋玉霰叢如雨渡可吹也

續教訓ニテリ 或書ニ云中比ノ箏ノ師ニテ市伏時光トキフヘシカ何ノ師門ニ

カ内ヨリメシケルニ同シヤウニ老タレモソト口基打テ奇ウタ

ウヤウニヨリアフセテ大方圓モ入ス由返事モ申サリケレハ

師使アサケリテ返リ糸ヲカクナシ侍ト新ノ申タリケレハ

トアワレナレ奉哉唱奇シスニシテ島ヲ忘レタルニコワアエナレ



御門ノ位ヨソロ借ケレサルメテ夕キ車ヲ行テモエキカスト  
ソノ終ハセケル茂光トイヒシ算策ノ味トフタリ晨頭乐ヲ  
唱歌ニシケルトフ後ニキコケリ

又云土御門大納言宗俊ハ時光才子也大食調ノ入調アリ  
トテ歳テラシエ申サリケルホトニ五月ノ廿日アセリ雨カキ  
リナクフリテクラカリケル夜イテキテヨヨヒカノモノヲシエタテ  
テラント申ケレハイフカリーテトタトノ終ケルヲ殿ノ内ニテハヲノ  
ツカラキク人モ侍ニ大極殿ノ渡セ終トイヒケレハサラハ牛車  
ナントリヨセテヲワシケルトモハ人侍テアリナムトテ時光  
ヒトリトテミカサキテナムアリケル大極殿ヲハシタルニ猶  
ヲホワカナク侍リトテ續松フトリイタシテ更ニ火トモシ  
テ見ケレハ柱ニミシキクルモノヲタチスルナリケリコトタレフト同

之ハ武者トナリケレハサレハコソトモ其夜ハテシニ申サレカヘリ  
ニケルト申人モアリキカハカリ心サシアリドテヲシヘケルトモ聞侍  
リキツレハヒカ事ニカ侍ケレ

彼武吉モ其道ノ上人ナリケリタルニカヲワシケムノ人ノタレニ  
ナラヒタルフト同ヤ給ケルニ道ノモノニモアラヌ法師トカヤノヨク  
ナラヒタルモノアリケルニナム傳ニ侍ト申ケレハ猶時光才子ニ  
ナルキナリト作ラシケレハ作ヲウケ終リテ彼カ家ニ至テツレカシ  
ニイリテトイワセケレハトシコロカマウモ不見モノトテヲトワキテコ  
ヒケレハ時光ハフエウクロヒテサタリケルニ武吉庭ニサテノホラサリ  
ケレハ袖ノハタツトリテヒキノホセテイカト同ケレハ殿ノ作ニテ申  
才子ニモヒリタルナリトイハイト心ユキテナニヲカ習終ヘキト云  
キ大食調ノ入調ナムニタシラヌ物ニテウケ終ムト思ヒ終ルト



イフミケシキカツリテ大詔ニテ侍リケル公里カニナリケル  
ニ此意果ニテ工侍リテ後コソコト人ハサツケタテニワラメコシハ  
思フホシヨルニキ事トイヒケレハ此君ツタエラム事忽ノコト  
ニアラシテ各存トリカヘシテカヘリイテ、歳一ケル後ニ心フカリ  
ウカヒテキカムトスルナリケリ昔ノモノ、昨ハカクナム心フカ  
クヌワヤスクモセサリケルナリ

此武者侍従宰相内ニシコウノ人ナリ彼武吉申ラズ大食調  
入調ヲキカテヤ、依ナムスラムトイヒケレハ年来テ、イシラレ  
スシテスキ終アヒタ又申テ云ク時光ニ大食調ノ入調フセシ  
クテ武土ロカクシテキカセサセ終ト切ニ申ケレハ時光カニイ  
リタリケルヨリ武吉ヲ宿取ノシタニカクニシテ入調フキ  
テキカヨト作ラシケレハ時光申ラズ只今武吉ナトヤ殿内

夢

以ラムト申ケレハオモト作ラレ仍大食調ヲ音取テスニ吹テムトスル  
トキ宿取ノスツヌアラカニヒキノケ終タリケレハモト、リハケタル男  
ヒシハスルトシテアセミツニナリタルモノヲチシイタシ終タリケレハ時  
光モアサニケテモ、武吉モ我ニモアラタカホシテアキレテサリケル  
カタ子ハモリテニケニケリ時光イカナル莫、以ラムト申ケレハ宰相  
ノ父ニヒケレハ年来此男ヲ時光ニ入調フサセヨキカムトセメツレハ心ヨワク  
フカセテキカセト思テアリツレモスニフキニトシツレハナラ思ニ不  
便ニハラクロクヲホヘツレハヲシイタシツルナリトソフタニイケル

又云公里ヲヤ、時光ニ大食調ノ入調ラレニ時光ウセテ後其入  
調ノ中ニサホワカナキ更ニアリケレハ心ウクヲホヘテ内心ニナケキテスタ  
ルニ夢ニ時光来向テ申云ク件ノ取ヲ、互ニ互吹テ此定也ナニア  
ナケクヲト云其由カキタル譜ナトウセタリ夢ニ、一ケル定ニ書



久し譜ハ伯題仲朝ト傳タリ其夢ノ次ニ時光申云ク公里カ  
命ハ七十二ニテツアラコスルト云ケル公里ハ常ニ申シ七十二ニテウセシカ  
ハ其夢ハテコトナリケリト世人シリケリ時光ハエタハ玉ノカフリテ  
オニトウ申ケル  
又云大食調入調ハヨク秘蔵セシム曲ナリ時元ハ親ノ時光ハトク  
ヲクレテ時忠ニソナラヒケルナラハトテハ時忠ハ曰兄ト云ナカラ  
後者ナトノヤウニツカワレテヨククククアリテソアラシク時元時忠  
ニウツクイヒケルヤウ今ハ我ヲウヲ親ト頼シタテニウリテ夜盡ツキ  
タテニウリテスルニ此曲ナシラニ候フレハイキテモムヤクノ身ハ一及  
ツキテ安セサセ於トナクク云トハ時忠ハ道理ナリトテ教ヘテリ  
叔今ハ吹キカト云ケルヲヨクヨカニウケタニハリストテ時元不吹ト  
アヤシキ莫イヒラ時亦モ常ニ申ケルナリ

公里カ申ケルハ平調ハ調ヨリモ大食調ハ調ハ秘物ナリトソ申ケル  
時光云ク公里時忠カ笙ハサテヲトリニサラスモタハアソクフレント  
ソ云ケル公里ヲハシロキ子リイトヲニホヒ目出ムラコニソメタヤウ吹  
時忠ハハカシ障子ヲ小石ヲニキリテツヨク赤極吹ト申ケレハ公  
里申云クヨキ莫ハニコソアレ両方ニワカチニ吹トアルハイカニト云  
ケレハ時光云ク佛ノハリトキ終モ人ノ氣コレニタカヒテトキ終  
シ各カ心ナニヲミヲカヤウニハテト申ケルサレハ是時光モエワカサ  
リケルヤ

三宮作ニ云ク笙吹公里申云ク時元ハ笙ニリテ説也吹ハタカサヲニ  
ミテクラヲハサスル様ニテワロレリテ説ツケテ吹モワロシト申ツ公里  
トモテ云ク此事心得スニ方ニモツカスリテ説ツケタルワロレツケス  
モワロシトアルハイカニト問ケレハ時光返事ニ云ク笙ヲテ説ハヨキ



アキカアルヲヨキヲツケテ吹ハワケタルヨシワロキヲツケスレハワ  
ケヌカヨキ也トナシ時光ハ申ケルト時光カヨキリシ説ワロキリシ  
祝カキタル譜ハ公軍カ進上早時光ハ侍位宰お殿ニ調子ニ  
公達ヲフカセ終ヘキヤウトニ又調平調盤涉調此三調子ヲニ  
奉也仍其年習傳テ春宮大夫殿三位殿吹終シナリ件ノ年  
ハ時光子トモモ不傳仍時忠ハ三位殿ニテ奉ルヤ  
又云時元本ヨリ天性カシコク目出度者ニテ我不知樂ヲモ横  
笛ノ吹ニ付テ能知タル樂ノ如ク吹モノサラモクルヘキニ出付ナ  
ル諸ノ樂ヲナラヒテカニミヲカケテヲホヘテ吹シ也  
或云昔萬歳樂ノ中ニ盤涉調音ヲ吹取ノアリケル今在  
ニ吹カズヒテリキニハ末吹シ也ト云彼家輩ニタツヌヘキヲヤ  
豊原利秋云ク日吉社奉赤日御供之時列人必ス馬上ニメ

鼓笛ヲ奏ス其音頗ル好楽塙ニタリ時忠コレヲキタシ笙ニ  
和漢ノ竹アリ優奏ナリ仍彼列人ヲ子キテ他ノ笙ニ相  
傳シテ善アヒロヒ庶ヲステ音色ヨリ調フル唐竹アヒヒシワ  
ニニ更九ト号ス自愛シテ数年アリ門外刑ア並或兵衛尉  
源義光ハ傳フ此説不審且管ノ名物ノ更九ハアラシ新更  
九ト号スル笙アリト早若其更吹  
又云時元ハ宗俊卿ノ弟子也彼卿早世後遺徳ヲ忘ルコ  
トヤニスツヒニ夢中ニ謁スル更ヲ以テ勇勝破ノ秘説ヲ傳フ  
今ノ在是ヲ時元カ夢説ト号ス委ハ彼樂ノ取載  
又云保延三年正月四日朝觀行幸ニ輪臺イテトシケルト  
キ丸樂行更ニテ大炊御門ノ右府ノ中將トテヲワシケルカス  
ミニイリテ輪臺ノ塙代ノ笙吹雅樂屬清方丸近將曹時



殊音取相論スルヨシ奏セラレケルハ殿下法性寺殿院申  
終ケリ院ヲホシメシエサルヨシ仰アリケル殿下大臣花園タツ子  
申ナレトハ左府仰ケルハ笙奏外勝劣アリ先例官ノ上下  
籥ヨラズ普代ヲエラヒ用ラズ也清方ヲ用ラズハ笙ノタメキタ  
ナキ也ト申終ケル殿下此由ヲ樂行奏ノ旨ニ仰ラレケリ是  
ヲ安テ中院左大臣ノ大納言ヲワシケルヲハシメトシテ悦フ人々  
多カリケリ仍時秋理運ナリ彼右府ハ時秋カガ子ニテナシ  
ヲワシメシケル故シ

延喜ノ御門ノ御時内裏笙笛竹ヲウヘラシタリケルカ笙ハ  
ヲサナクシテトコウニニライテアルヲ御覽シテ落中書王  
兼朝親王延喜ノ御子ヤウクヲセ終ル  
ツハクメンタカシナハイニタ鳴鳳ノ管ヲヌキイニスワタ

カニレ根ハワツカニ卧龍ノ文ヲ黙ヌ  
或説ハ中院雅定ヨリ笙笛竹ヲ取望シ申サレタリケル由  
返リメモアリ中院右大臣雅定ハ笙ノ上キヤ時元カガ子ヤス  
シモタカヘスウツレ終ルトソ更礼トイフ笙ヲモ傳終ヘリ更礼トハ唐ノ  
竹和竹ナトノナアニスクレタルヲエラヒテウクラレタルトナシ更礼ト  
云笙ハニツ侍ケル本ノ更礼ハ三國ノ竹ヲ以テ造時元カロルニテ  
時忠自ツタリツタヘ傳リムラトイヒテイナリニツリナト云テ  
ツリワタル者ノ吹テウタリケル笛ノヒトキリトナル竹ノ更ニテ  
聞ヘ侍リケル核數ニテ時忠ヨヒヨセラカニハシハ同クハカヤウ  
ノ笛ヲコソ吹メトテ我笛ニ取替テ我ハシシリタラシ後ニ取替ン  
ト云ケルハムラノ者悦ヒテニナ見シリ終リタリトテ取カヘタ  
リケルヲスケタルヒニキ有ケル竹ヲヌキカヘテエナラズシ



ラヘタテ、終ヒタリケレハヨロコビテ返シエラナシ侍リケル其文  
九ハ時忠カ子ノ時秀傳へ侍リシラ子モ侍ラサリシカハカ子  
ノ義先傳へ終ル

或記云ク堀川院ノ御宇三十月ノ十日録リノ事ナリケレハ  
草モユカテ日テリテアウキニ内裏ヨリ御使アリテ急キ  
系ルヘキ宣旨アリトテ時元カモトラ尋ケリ何事ノ御用  
ニガト心ノ中ニハ思ヘトモイワキ系上スヘト申セトハカリ有テ  
御使ハニカリ歸リ又時元紫束シイテタテテハセニイリ又  
神妙ニイリタリ近ク系ルヘキヨシ作イタサレトハ御ウホ  
内御前近クシキカハエリテシハラク仇ケルニ重テ宣旨アル  
ヤウ今日ハコトサラニアツク思召スニヨリテウツリ泉ヲ御  
前近クニウケラカシメ終ト云ヘトモナ水ノ上ノ風流心ノ内ヲ

ニシクナレタテニウラスイニシヘ云ヘト夏アリ心シツカナレハ身モ  
シツカナリト云ヘテ打キカセ終ハムニスモカリ又ハカラム曲  
ヲハカライテ一曲ウカセウルヘト伴出シレタリ時元カシユモリ  
ウケ終リテ御ウ内ノスニシクナラセ終シハ盤渉調ニゴト案ニテ  
盤渉調ニ子ヲヤククワカセウリケル彼調ニハ冬季ニカタ  
トル水ノ音ナリケハ殊ニ目出度ツカセウリケリ則主上ノ御心  
スニシクナラセ終ケリ御感アリテ祿ニアツアリテニカリ出シケ  
リ高名トソ申アヘリケル

私云先祖ニハカニ仁アリ其子孫ノ者トムム名如地ノ作ア  
リトモ此心バセアリカタシ但樂ヲ冬モヨク覺タラハ又サノ  
ニ早下スヘカラス唯上代ニ生サリシ夏ヲナケルニカニ此  
心仕ハワタルヘシ心ニツカニテ暑氣ヲサシスル夏ハ前ノ卷  
モ載シ侍ル也



笙笛沙汰事

弘長三年五月九日

壬寅

齋龜山内自昨。如法經供花當

番也。著淨衣盡夜令勤仕也。十種供養笙可勤仕而近也。

伶倫笙笛皆細。予一人大笛也。相遠如何之由。沙汰出來為皇

后宮大夫師經卿奉

今度師經卿寫之衆也。上皇与此人更備德又一向被奉行人也。

有御問

答予申云。近也。笙笛皆以細。其故者。以笙二者。尤近。將監譽

原近秋為諸人之師匠。○笛也。彼近秋者。多好節子。為豐

原忠秋之猶子。不傳秘曲。并本譜等。祖父利秋之時。以事

譜。笛青石。未讓進。故猶熊大殿。又進子息秋範。菲桑人為招勳者為

調御笙也。後任左衛門尉。

彼大鼓器量。振群曲節。令完傾然。故也。仍彼等

之笛。難取信。予相傳曾祖父大納言宗一。笛聊大從近

之笛。故大神景基。橫笛地能無比類之仁。未談云。笙笛皆以細之間。

為橫笛無新之次也。此笛通普通也。尤可被用之也。予答

云。此笛非師匠中將入道敦通相傳。又故大納言無注置旨

只笙一管。本譜笛石。未相殘。許也。不知是非為之如何。景基

云。猶熊殿。祖儀笙調秋範者。相親者也。故利秋者。為景

基之外祖父。故持向此笛。可令試彼笛也。仍即持向吹合

之處。刺彼御笛。大從此笛。折中之樣。尤可宜之間。令諷諫之間

予今取用。未也。無此子細者。如彼亦笛。令調人之條。有煩哉。就

中。當時笙一者。將監好秋。未。○笙笛細能成事。子細分

明也。世人不知之。尤有其謂。頃德院御宇。大原前僧正。卒

參童舞。有倫穀。覽事。西度也。其以兼日笛一者。尤衛大夫大

神景賢。拓故忠秋之處。依一。取芳。着遣好秋也。景賢相語

云。喘息。取芳。持病也。先後連。相後。愛。卒。未。取持之。笛



雖吹能節而細內、欲令調合相親間也。忠秋之好者景賢志意共為笙

笛之一、旁依得便樂人也其時忠秋依彼語調人景景賢

為一者之間不改其笛于時忠秋之舍身佛聖房南都善提山法師笛吹也

橫其笛伴比多用彼笛也本舞笛進入近衛殿之時橫笛之

○伴端破笛之而忠秋之末子信秋幼少之時引失景仍其

笛折絕景近秋不知此子細尤有其謂之笛二者在近將監

太神景身未談之此更雖無兼置旨節有由緒之祖父

景賢喘息所勞過法老後好吹笛而細更一定也伴笛

俄吹惡更出來一切無瑕景賢云此笛歌邊有更吹或

笛細之僧云皮部有更吹即切破見之有依為寄竹有

石摩那二以表深加於理其上墜籠之柏裝束也而伴

表深放之間其響音聞惡節更加修理之後如元景賢云

歌邊有表上聞之細之僧皮部那下推之西人之高若也伴

笛○僧藏人景景基笛之子也光年常系今式賢与景基陵

王荒席相論之時為景基之方人奇身命人戰依其感

也○兩人說者太有共與此亦之子細為被洩達粗令

詔皇后宮大夫景兼又此沙汰出來之時於上皇御前

或人申云予笙非重代○執申之頗為無念以更吹欲

申披之凡管絃家雖可器以傳之為重代如地下輩太神

笛景原笙不定其器但如書家催馬相傳之人少、有、

友笙者堀川右府大宮右府大宮按察中御門右府同

內府中御門大納言等連綿不斷父祖二代中絕然而兩

中將入道敷通就依學此道受其說彼禪門又重通家

通敷通亦相傳之人也兼又召付豐原利秋究創源



一随又豊原時元者大官梅紫宗後弟子也又中御門  
右府奉勅康和年中定笙吹三人豊原宗里令勝劣粗申  
子細今取稱雄之近秋當時笙二者稱其未於當道可獨步  
之家此子細見中右記衆口銷金無術之次也隨可被  
奏達之由答

真書

御門宰相宗雅以御本書之

從五位下九近將監豊原朝臣量秋判

諸曲譜之事者先師教多有之章而可勒之事先唯  
無術之間略所要樂音布利拍子太長短吹久在  
一大事也師傳歷之深甚也取要聊記在可練  
習之

平調

三臺破 延八拍子

始十拍十拍始十拍延可吹拍子也公十拍中延名拍子也  
然三拍三拍由下十拍延八拍子物ハツレニフク後ノ息ハ拍  
子ノアタルナリ然ラズハ前ノ下拍子アタルナリ故十拍始  
息ハ拍子當ルナリ此様每ハアルニ是ヲ本トス下下下下  
一延ハ小息ナリ仍後ノ下拍子ニアタル也始下下延ハ公由十一  
ニ由ハ此ハ中延ハ間後ノ拍子ニアタル此拍子ノサレヤウヲ以  
テ一延ハ小息ト中延タルヲ知ニ每ハ如此然ハ是ヲ本トスハ

急 早四拍子

此ハ此ハニナカラ延テハハハハハ此後ノハハ延ナカラ中延ハハ



テ下十トウツルニ上下吹ハリタル凡ヤ中ニモタセテ甲シウケテ  
十トウツルヲ傳也扱一乞此ノ乞ハ吹スツルヤウノ息ハ心ツトム  
ヘカラズ前ノ吹ハル凡心ニカウルニ此後詞拍子此心ヲムスレカトルニ

萬歲樂 延ハ拍子

此ハ指タレ習モナレ譜ノ面無様但半帖ノ十由下ニ由下此ノ十由  
下ニ移一取拍子一息ニ似テ而モ一息ハアラズ吹クセナリナテ次ノ十由始  
ノ十由拍子ヲアテテ常ノ拍子吹ナスニ又只拍子有舞始ナ任  
タレ御遊ノ只拍子由利吹自半帖於世吹ニ成テ青海波ノ程ニ  
早吹ニ舞也是ヲ中帖曲ト云以外秘事也延タレハ拍子ヲ  
於世吹スル口傳安夏ナレモ不傳者難知夏也 ツ子ノ只拍子ノ  
吹様ヲ吹キラス  
ツラ子ヲ吹ハ於世吹ナリ仍譜ニ不出假令十由下ナレトアルニ由ノ取ハ皆一息  
ニフクナリ只拍子ノ譜ノ見也此を秘夏也

皇鹿章

譜ノ面不審無之一帖ヨリ八帖ニテハ延ハ拍子ナリ九帖於也  
吹也萬歲樂中帖曲於世吹ト同之譜ノ見様ニテ可吹

急 早四拍子吹様不審之

但乞下十由此ニ夕ヨリ可吹此下ヲ少持心ア  
レハ乞下ニ一息トキニテ十ハ例トキコハタリ

晨頭樂 延ハ拍子

始ノ下ハ三ナリニ延テニメハ少早キ也每度此拍子在之

慶雲樂 延ハ拍子

由心ハ十由下十ニ此ハ二十ナリ始ノ息ヲ早ク後ノ息ヲ延テ十由下  
十由ト可吹只拍子之時ハ二延スレテ可吹十由下十ニ由乞十  
是ヲ只拍子時ハ十一乞十ト吹ナリ

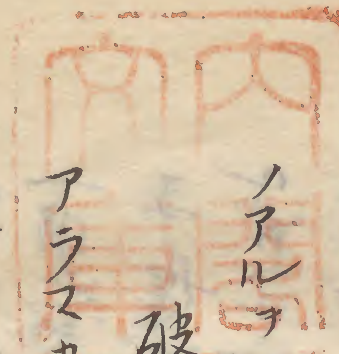
永隆樂 延ハ拍子

無不審









凡エトトコヲリナクフキテ下太コノ人へ取詮詞ノ延し、メハ笛  
 ノコハフリ拍子ニツクヘ如此他管ニユツリテ打任スレトモ若不戈  
 覺笛吹テラハ無正辨莫ナルヘシ然ハ昔管ニテ句ノ延シメ  
 又カリテ吹調ヲ持シ句ノ終大ニムセアツルハイワレノ序モ同キ  
 ノアルハ後ニ重テ早ク吹ハ習ナリキワメテ又シツカニ吹取モアルヘ  
 破此中ハ拍子トモテ延ハ拍子ニモアラス又早ハ拍子ニモ  
 アラズカ、リ一向別ノ物ナリ一大事ノ拍子ナルヘシ、此始ノ一  
 延テ後ノ一ヲ早早心ニテシ、ウツリテ又シ始ノヲコレモ一ノ拍子如  
 カラエト延テ凡トウル此凡ノ拍子延モヤス早クモ又ナシコレヲ中ハ  
 拍子トモヤサテシト延ヘシオテ凡由此凡ノ始ノヲ延テ後ヲハヤク  
 吹テシ、ウツル此ノ心拍子ヲ捨ルモ習ナリ此凡凡シト吹ヨリ

示ノカリニ定ルナリ口傳ナリ又一凡エニリ此ノ一ヲ延テ一凡  
 エト一息吹ヘシ早カラヌシカモ又延テハ拍子ニアワスウツクシクナ  
 シト息入アルヘシサテ下十十此下ヲ延ヘシテハ下ヨリ少早心凡  
 へシ後ノ十ヲハニナカラ早カレニ如此吹モテ行ハ示ノカリ大方不  
 可有子細也

急 早ハ拍子但ニ千秋系白柱ナシトハ可替ナリ下十  
 此始ノ十、シヤウ如此ナルヘシト延テ下ヲ同シヤウシカモ十ヨリ女  
 早ク吹テシ、ウツル此シト日程ニ吹ナカラ後シノシヤウ吹アケテ  
 吹ハレモエ凡此エ凡ハヤリモナクヤストカルク吹テ一下ニヲ延ヘシニ  
 返ノ始ノ返ノ終ノ一ヲ吹ハレ後ノ後ノ一ヲ吹ハレハカラス真ノ後  
 ノ終ノ心同、此樂ノ吹極息入午シナ以外大事也可傳、  
 始ノ後ノ後下



十レシ此一由ハスエラ吹ハラス  
エウツル又ニ返吹時終レシ吹レヘシ

廻息 早ハ拍子 五帯 亦急大替ヘシ

十レシ下十一レリ此始ノ十ハ不可定ナドモ樂始ノ訶ナレハイサカ相  
カレテシウツルヘシサテシト延スレテ同程吹テ下十トトコヲラス  
ト可延サテ次ノ一リヲ延テ一乞乞ト可吹後ノ乞ニ可延又一レ乞  
一レリ此一始ヲ早ク吹テ後ノ一ヲ可延サテ一乞乞ト延テ下由レト  
一息吹テ下リト延テ下十トヤウモナクウリテレ此レ不延レシ  
心一リトレメヲ早ク後ヲ延サテ下十レトレレレモ始ノレハ  
不延後ヲ延テレトレト吹ク此レ不可延レ始ノレト吹返レヘシ

陪臚 早只拍子

十由下リ此十ハ不延但始テ吹出間少其心アルヘシ次ノ下ハ延ヘ早

只拍子ノウヘハワノレ不可延又乞エ一レリ始ノ一ハ延テ後ノ一ハ不  
延其モ後ノ一ハ延アサカ午ニスハカラス拍子人タルレハ後同前  
想夫慮 延ハ拍子

下十一レ己下悉無不審吹一由乞十一レ是モ如地拍子當様注  
レ可随上中延テ一延テ小息免別モ前注

杖南 早四拍子

譜之面無不審凡鷄德ナントノカ、リナリ一息大カイ待テ樂  
アリ替

勇勝破 延ハ拍子

譜面無不審只拍子之時終一拍子六鞞鼓也

急

下十レ下十此同訶也コレモ始吹出ノレハカ、レテ心アリテ吹出ス



へし爰本ヲ音頭ノ大事ト申也而モ又カ、リナリ又ハ下十シ  
下十シハ一トシ此後此吹クセ樂ノカ、リ專也此レヲ二日程シト  
吹テ下十トシツカニウツリテナシテ少持テ押タレ心カリテ次ノシツカロ  
ク少テシテ下十ト一息吹ヘシ惣ノ習樂ノ意趣シト吹後ノ始ヲ  
吹ヨリトゴヲテスサラト吹テハ<sup>此ハ心トシ</sup>ハ二ト心ヨク延ヘテ為シ次ノ句  
へ下十シハ二又延コレヲカ、リトモ云也未討同之

春揚柳 早八拍子

此ハ又余早八拍子カワリテ別ノフリ也先始ノ十曲下ハ此十延フ  
シキナドモ吹出ハ前ニ如申心アリテ始ヲ延ヘ下ニ心ナシハコレモ  
ニヤラモナク吹ヘシ如吹モテエキテ下下ハ此レテ後ハ延  
テ吹シムル也サテ<sup>由</sup>下ト始ヘシ此拍子ヲ末ヲ可心得又ハ由<sup>由</sup>下

下十ハ此終ノ十ハニナカラ延也又エハ<sup>由</sup>下十ハ此後ノ十ハ  
一也此十ハ一ト延此樂ノ專也面白討ト云ヘテテ吹ノハトウケ  
テ吹息入大夏也

夜半樂 早八拍子

是又春揚柳ニ替テ一説ノ物也於世吹ナリ始ノ一四ナリ次ノ一<sup>ニ</sup>曲  
ナリ次ノ一<sup>由</sup>ニナリ都々ナリ吹様ハ始ノ一ハ<sup>同</sup>程吹後ノ一<sup>由</sup>ト息  
ヲツキテハエトフク是ヨリ則於世吹ノカタナリ惣テ此於世吹  
スカタマ心以テ始ノ一ハ<sup>モ</sup>吹ヘシ只心ナクハ不可吹於世吹ノ物ト  
吹出ヨリ知様アルヘシ由ノ字付タル所皆一息ニウクヘシ

雞德 早四拍子

譜之面無不審ん仍不注之



小娘子 早四拍子

是々無不審然但元工一公元工此乃面自能可吹

王昭君 早四拍子

始し十下此様皆前樂元拍子アヒナリ十下し此しノ拍子五  
ナリ其ハ十下一息吹ヨリニ下拍子不審然しハヤク拍子アタレ  
也内テ拍子ハ五ナレトモシノ数ハ三也後ニテ延ヨツテ拍子四アタレタラ  
拍子五アタレ

感恩多 早四拍子

是又余早四拍子カワル也十一エ十下ナリ此一句ヲヨク吹ハ未エ及ニ  
始十少持心アリテ一エト一息吹ヲ十下ナリトヤウモナク吹クタレニ  
ナテ下持テエウワリし下しトナヒヤア吹テエリトニ延ヘシ又エシエ

此一少持テエト一息吹テエト不延ニ吹テ下しエトト吹テ十ナト  
ニ延ナリ又エト十下ナリ下しエトト吹テ終ノハナリ可延サテ此十  
下ナリ訖地久急モアリ少吹心カワレニ後ナリ此吹ハ其故し此不  
延然ヲナク吹ハラ子ハト吹クニ地久急ハ十下ナリト延テニ吹  
クエニ後吹ハラ子トモクニカラス此樂此シテ吹サテテフケハワロシ  
ト吹ハラテ下しエトト延テ下レト吹テ始シテ早ク後テ延ヘキ也

老君子 早四拍子 譜之面吹様無不審内不注

林歌 渡右樂 早八拍子 又延四拍子 カレカヘテ太コヲ打モ無  
子細元エ元此ノ後元一延タレナリ元エト此一始ヲ不延後ノヲ  
延フニ拍子ハ三アタレ也次一トヒトウ吹テ口返此ハ不延又不  
早中ニ可吹相下ナリト延テ一曲元十ト一息吹テ一リトヒ



ワ延ラ一下十リト吹レシ以後同之

倡頌 延ハ拍子 只拍子や

始ハヤウモナキ只拍子や 田凡シリ 一凡十十 此ノ田凡シト吹ク  
三吹切テ 句ヲ切タルトキカセテ 一凡十十一凡十ト吹ク 又一凡一凡  
十 此十ニ拍子トウサレトモ十ニ三ナリ始ノ十ニ拍子トモ後ノ  
十十ト重テ吹ク 拍子アタル 延ハ拍子向ニ息一 拍子蓄也 譜  
ノ面ニテ人不可知能ニ分別スニ又終ノ凡一十十下 一凡十 此レ拍  
子アタルコト多ト思フニ十下ヒトイキナレハ早クシテアタルシカモハ  
クシ延レニヨリテ後ニノレ 拍子アタル也 惣テ付樂他ノ樂ニ不  
似大鼓モ羯鼓モ大鼓也

黄鐘調

喜春樂序

此レ一凡 此同程 吹但後ノ句ヨリ少早成テ下十リト早吹テ  
大鼓合テ此句ノフリテ以後可順ニ譜ニ延取リトアルヲ見テ  
可延ニ此延ニ心アリ 少持心凡取モアリ 又延取モアリ 假令身ニ  
太マ此一レ一凡 此句ハリトアレトモ持テ次ノ凡ニウツル取延テ心ナキ  
ヨリモ持テウツル心ヨシアリナテ一凡一凡此レ此レハ可延ニ心ナク  
次ノ下ハウツルニ是ニテサトルヘシ者五凡 下十リ此十ニ又持ナリ者  
十一凡一凡此レ此レ持心ナリテ下凡ト早吹カ笛ニヨク人ナリ  
破 延ハ拍子シカレトモ余亦不似拍子大鼓ナリ 此レ此レ  
ハニナリ始レ此レナリ仍テ拍子ニアタルナリ後レ中延ニ小息



ナリサテシ比ビ此レハ又中延テ小息ナリ次ノ乞モ中延テ小息ナ  
リ拍子ノサヤウ一延テ小息似タリ其ノ見様乞ノ書ヤウ拍子ハ  
ニサレテ乞ノソニテ付タルハ中延テ小鳥ナリ一延テ小息ハニノ字不  
付ハ是ニテ見分ヘシ次ノシコシ拍子ナレシハナク早ク吹テ下  
ウツルサテト吹テ句ヲ切テ乞ハ是ハニナリ後ノ乞ヲ延テ比ト吹  
ハリテ一比乞此後ノ比拍子ナレ乞ハ一延テ小息ナリ以後同ノ能ノ可分  
同只拍子之事大方奥書ナシトハ不出侍トモ秘ノ子  
吹試度支也 比リハ比半拍子ヨリ其例之只拍子  
ト同仍秘ナリ亦ニテ太ヲ後比コレヲ比ト吹テサテ一比リ上息  
ニ吹又終ノ比下一息ニテ乞リト延テ乞乞ト吹テ乞トヒト吹テ  
始ハ吹返ス

桃李花 延ハ拍子

帖之譜面無不審間不注之一帖只拍子又無子細乞  
清上樂 延ハ拍子

譜之面無不審之間不注

泛龍舟 延ハ拍子

始ノ拍子無子細乞由一乞下レ乞此一乞レ乞ニナルヘシ吹クセノ取也下  
レ乞此乞又ニナルニ上ノ一乞レ乞後ノ乞拍子ヲアテ吹シツメテ下レ乞  
早下レトウツリテ是モ後ノ乞ヲ持テサテ一乞レ乞リト吹クサテ三  
延テ小息也始大ヲ次乞由奏下此下ニナリ奏ニ拍子アタラルニヨ  
ツテ下ニアタルコト此系ノ吹クセヤ此調ノ取ハ兼秋自筆ノ凡毎譜  
ニ口傳テ殘カレテ師傳ト云レバ又之口傳乞由奏此ヲ吹シツメス



中ニ吹テカルク下ニウツルハ心ハ只由表表ト吹ト思テ後ノ表ヲ下ニ  
吹ナルコソ此傳ナリナリ思ヘカラス於未代不可知人同ウラ人  
吹ト覺侍トモ如此口傳シテ息入ト下ヒツカニ可聞大ニ可替又表  
二度メノ下シ心一乞ビリ此ノ次心エ此凡ニ也延テエ一息吹ク此又中  
ニウケテカロク吹テ一ウツル此一始テ延テ一息下吹キ秘ヤ表ナリ太  
ク後ノビニ中延テ十下ト一息吹テ下ニナレシ後ノ下ニタフクト  
拍子ヲアテシニウツル此レモ後シ拍子ヲアテシカモアロク吹シワメス凡  
エト移レ又エソノ取此後シ心ヲトメスカロク凡ニウツルサレトモサワ  
カレクハアルヘカラス表十六メノ太ク後ノ凡ニ心ナクアラクニウツル  
此一始テ延ル次ノユシ前ニアリ

散吟打毬樂 延八拍子

始ノ一由乞此一帯ハ拍子ニアタルカ又ニアタルカナレニ是ハ拍子  
一ナリ始テ不延シテ一乞ト吹エナリ乞一延テ小息ナルニ他取無  
不審不注ク又只拍子用三十二相此時早只拍子也一由乞リ  
此一ヤウモナク一乞ト吹此乞リ延ニ後ノ乞リ此ニナカラ不延十由  
乞リ上ノ拍子同之已後拍子譜ノ面無不審乞詞長短音曲色隨シ  
央宮樂 延八拍子

威城樂 延八拍子只拍子時表六大鼓六拍子ナリ

表四ノ大鼓ノ後比ニ此比ニ三也始ニテ延テ比一トウツルハ此一モ三ナ  
ルニ中モ不延ニナカラカルク吹テ中ノ一拍子ヲアテ此ト吹付テ比  
ニ延テ比シト吹ナリ以後無不審乞（末ヒト子ヤウニカマシ）但只拍子之時此取十  
リビニリ比ニ一比リ比ニ此分ヤ



始ノ下ニナリ始ノ下ヲ少延心アリ云ニ延小息無不審才八ノ大ヲ  
一此中延也凡エ此一始ヲ延テ都人ニナルシ又才五ノ大コ後  
シハ五延テ小息此次ノ下下此十ハ延ハ吹ケ前示モ有之只柏子  
己下譜面无不審

安城樂

延八拍子只拍子無不審 才五之大コ後十由下シ

十下シ此前ノシハ二也後ノシハ少持テ中ニ吹ハリテ十下シトウ  
ツクレクカロク少早心アルヘシ才三ノ後エシ此ハ二ニ

聖明樂

延八拍子 只拍子无不審 譜無不審

應天樂

延八拍子 只拍子无不審 譜無不審

重光樂

延八拍子 只拍子无不審 才三之大コ後云此

一云ガ比一カロク少早比モモヒトツナルニ後ノモ同終ノ比一此ノ一ハ二ナルニ

河南浦

延八拍子 譜面无不審 只拍子ハナキ之何ニ及子細

平雲樂

早八拍子

比下十ニナリ一此ハ二ナリ不延同程吹テ一云ト吹ウルヘシサテ云リ

二延テ云一云ト下シシリ此ハヒトツノ云ヲ少持ヘシ延テハナシ此

云ヲシタルクヲモクフケハ一云ト下トウウクシクハ吹クキ取ナリ

清音樂

早八拍子 譜面モ無不審

於翠樂急

早四拍子 无不審間不注シ

西王樂序 无不審破延八拍子常ニ只拍子用ハ

譜无不審 當時無之無念更也

蓮華

樂延八拍子 譜ニモ无不審 有只拍子日無不審

鳥急

早八拍子 三十二相次必吹シ



上りし此後し不延始し延ヤ始ノ下じりハ延後ノ下し此し不  
延又エ一り一エ此後一譜ニ下書若ニ下可心得之間如延注  
之想ヲ此樂ノ拍子常ノ人フケトモウレシク吉ハ不聞先始ノ下  
延テ次ノラ延ス又早カラス中ニ拍子ヲアテ下しト吹ヘシサテしり  
ト延テ下ししト可吹又エ一此ヲ中ニ吹ハリテ次エ一りト  
吹シツテ延ヘサテ次ノ句ヲイキト吹始タルヤウ吹ヘシ由エ  
一乞下此ノ句ノ麦也以後ノ拍子如延  
一取分此調子ノ楽始延ノ多心口ノ拍子三延タノ音頭  
スル時始ル中延ノ様吹出スニ反テ拍子モ又同カニ他調子モ同

雙調

春庭集 延ハ拍子六拍子時亦六太鼓六羯鼓

譜之面無不審 只拍子又無子細仍不注之

柳花苑 早只拍子

凡ニリ延ナリ凡由一リ此ニ凡リ凡ハ一ナリ凡リ此凡ハ始ハ早後ノ  
凡ハ延常ノ只拍子通也又亦大ヲ後十曲凡リ一乞ナリ此一乞ハ  
一息ニ吹テナリニテハ吹スレテシカモ句ノ内也ワロクフケハ十ニテ一息  
ニキコテワルキヤ一乞一乞少持テ十ト別ニキコユル様ニ吹ヘシ

渡物 亦物口傳以如本調子也依不審之

鳥破 延ハ拍子

譜之面無不審 但終ノ十曲一乞ナリ吹クセ也是モアルカリ  
ノ譜ノ拍子サレヤウナレシ此十曲ニ心ヲウケテサレテ不延ニラシカ  
モ後ノ十曲ヲシテ持テ一乞ト一息吹テ十ト延ヘシ



只拍子身一ノ大ッ後十由一乞り一比ビ此比系拍子ノ譜ヲ見テ  
一比ト吹一止拍子ニテハ比比ト後ノ比ヲ延テ如吹也 御遊ノ楽ナレハ  
常ニ吹テ午ニナカリ能ク可分別

急 早八拍子

心ハ心シ此ノ止中ニ吹ハリテ心リトウツリテ延ヘシサテ次ノ止心  
ヤウモナクスルノ下吹ク見テ一ハ一ハリト延ヘシ又身三ノ大ッ  
ノ後一乞十此ノ十又中ナルニ吹サクハカラスサクレハ次ノ一乞十  
リウウクシカラス又身六ノ大ッ後一由一乞一乞十リ此  
後ノ乞一ヲ拍子ニヨクアテサテ持テ心由此初ヲ延テ心由一  
乞十リト延ヘシ午ニ十息入能ク切ヲ入ヘシ

賀殿破延八拍子

身三ノ大ッ後比由一乞一乞由一才身大ヲ後比一乞一乞此ノ此一ハ  
上ノ乞ヨリ心ヲツケテ後ノ乞ヲ少持心テ下吹アケテ心トウツルヘシ  
一ヲ吹サケテ心アケレハ心トウツリテヨハシ

只拍子 譜ニ無不審

同急 早只拍子 譜ニ無不審

春鷲轉瓠踏 八拍子物本調子十日

始大ヲ後ハ心心由一此心由一息ヲツキテ於世吹比由心同ノ

入破 六拍子物拍子祝瓠踏 日譜之面無不審

陵王破 早八拍子本調子 委注 自本調子大事ニ常可午腕

北庭樂 早八拍子本調子日之

胡飲酒酒胡子武德樂迴坏樂 新羅陵王 但常不



用之已上本細子ト月仍不注シ

地久急 渡右系 早八拍子

第二大ヲ凡此凡ヲ吹レワメテ一凡ト一息、ウツクレクカロク吹テ一由  
凡ツクナリリト後ヲ延レサテ凡トヒトワフク此凡中ニ吹ハリテ十、下  
拍子ハニアタレ十ニナリ十下ト延テ一息、吹此系ノナリ吹ク  
セ也サテ凡シ下トカロク十、リト二延レサテ比ト一吹ハレ一凡  
一凡一凡十、トナシトカロク吹テ十下、下此下ヲ吹レワメテ  
ヲモク吹テ十下十ト息、吹テ凡、リト二延レ

### 大食調

#### 秦王破陣樂

始序後延八拍子

来テ大コ後シニ一レ下シ下シ

是ニテ序吹但ニテ序ノ内後ノ、大コヲアテヨリ末拍也  
此後ヲ吹ハリテ、自是下拍子アリテ、大

コニ延テ小息也此時序吹無シ奏凡凡奏下是ヨリ早吹也於也

拍子也号早吹可秘公リ凡奏下リ十、リ一、吹切ニ譜之見様只拍子口傳

如前云由ノ付タレ取ハ悉ク一息吹早只拍子也以後无不審吹

傾坏樂 延八拍子 譜之面无不審凡只拍子日前

急 早四拍子 无不審

散ノ千二序 帝之譜之面也詞息入ニキトワヒシケ

ナキヤウ吹ナスヘ此序亦ニ大コ一凡一凡一凡一凡一凡一凡一凡一凡一凡一凡如此重テ吹  
詞後凡エヲ重吹テ後ヲ早吹テ大コ一凡一凡一凡一凡一凡一凡一凡一凡一凡一凡一凡

破 延八拍子 譜之面无不審

順



太平樂 道行 延四拍子

曲元エリト延ヘシニナルエトヒトツ吹テシト早クシヨリエウツル  
サテ次ハシト延ナリ後テ此拍子也第七大ヲ後ニ由奏下下  
ビ此ハ三也拍子ニ也一延テ小息ナリ次十曲下十此十ハヒトツナ  
リ次ノビコレハ二延テ奏大ト早吹テ一此ハニナルニ次一由シトエ  
心ハ十下下下ハ此ハ一延テ小息ナルシト付タレ皆早吹心ナリ

破 延八拍子

才四ノ大鼓後一テ十下此一息十ト延テ拍子ヲ可ハ此示ノ吹クセ  
ヤ後アル取ノ下ハサハナシト拍子ヲカシタルテ可心得同ハ拍  
子无故實乞樂拍子テ十下ト延取只拍子ニ心得ナレツ子拍  
子タルヘシ

曰急 早四拍子 曲下ツク息ヤ於世吹ノコトニ世之人ツ子

有テ安コト思ヘリ動ハ樂カワカシクテ物云心アリ祠ノウツリサハ  
トト明白ニ年ニナシナヤカ吹ナスニ大鼓モ大事ナリ能ク打タル人スナシ

賀王恩 延八拍子

才ニノ大コ元エ一此ハ一延也シカモニスハ少早心アリサテ元エ二  
ト吹ヘシ此元エ延ハカラス假令五帝樂破ノ下ト延ハ拍子ハアラ  
カルト云コト也サテ才三大ヲ後元由行奏此奏ハニ不延ニナカラ  
同程ニ奏ニト吹テ下ハト吹又才セノ大コ元エ二又延ニ又延ニ  
ニナルニ又才十一大ヲ後元由行奏下下下下ト吹取吹クセ  
ナリ上ノ下ハニナルニ才十三大ヲ後行奏下ニ此ノ下ハ三ナルニ  
中延ハ後ノ下ハニナルニサテ行奏一コレモ三ナリ中延ナリ又元エシ



中延也悉吹名ナリ能、譜ノ面ヲ守ヘシ只拍子カケ吹多  
在之先不審由

打毬系 延ハ拍子

才三ノ大コ塩ビ由心行奏下ニ此下ハヒトツ也又一曲行奏下此  
奏下モ二ツナリ又ハ工一行奏下此下ハ才三ノ大コ後ノ詞ト  
同之又只拍子先不審

還城系 早只拍子

才二ノ大コ一ツコハヒトツヤ曰才ハノ大コ一ツヒトツナリ  
才大コ下ナリ是ハニナルレ余ノ詞譜ノ面先不審

放鷹系 延ハ拍子

才十三ノ大コ由エヒエリ此ハニナリ後ノ才延ハリトノヘテ

凡火凡火ト吹ヘシ吹クセナリ只拍子アリ先不審

夫人系 延ハ拍子始大コ後ハ工一コハニナリ奏名一ツリ奏

ハニ乞ハ一ナリ吹クセ也以後先不審

輪鼓禪脱 早只拍子 説、有之 亦拍子説アリ

譜之面先不審大方板頭相似タリ但板頭ハ舞アリ舞ノ

心姫<sup>テ</sup>髪ヲカナクリ眼ヲタテタ心アリテ舞ナリ其年ハ人ヲ

ノ拍子列モ吹ヘキナレハ大カワルヘシ此系ハ<sup>一初吹出音頭ハ此行ヲモウヘシハハナシ</sup>行奏行リ<sup>ハ初後</sup>

句イカニモシテヤカニ吹ヘシ又才十三大コヨリ<sup>一初吹出音頭ハ此行ヲモウヘシハハナシ</sup>由一<sup>一エハリ</sup>凡

ナレリ<sup>エハ早コル</sup>シハ<sup>エハ早コル</sup>ニ<sup>エハ早コル</sup>此詞此系ノ詮ナリ能吹ヘシ<sup>一初吹出音頭ハ此行ヲモウヘシハハナシ</sup>明<sup>一初吹出音頭ハ此行ヲモウヘシハハナシ</sup>

才三ノ大コ下ナリ才三ノ大コ下ナリ

菰 芳菲 延ハ拍子



一由凡工此工二十リカニ大ヲ後じ一奏乞由此奏乞吹クセナ  
ナリ此乞心ナク持スレテ一由ト大コヲアテ一工凡由工ト吹ヘシ吹  
一由奏乞乞奏下己ハ常有詞ナリ常ニナキ余ニテシカモ吹クセアリ吹  
裁テ置ヘシ

抜頭 早八拍子

し行奏行リ輪鼓禪脱ト曰カレトモ上ノ一夕曰カラス在間之  
人吹ハ曰一ロ傳云ク後ノ行吹アケシサテ一ロト中ニ吹テ又  
次句ヲ一夕ノ終コトヲ吹アクル心アルヘシ但下由し元リハ吹アケス下  
リト中ニ吹テサテ一由奏リト吹アケテ下一リし由元リトヤステテ吹  
ヘシ取詮行ト奏ト又事帖ノ乞由凡工此工トヲ吹アケテ吹クヘシ此  
説深キ口傳エハアリテ面白説や又一元レ下ニ下由し一ロ  
下由し一ロ此詞ウワリシク吹ナスヘシサカスカタノ舞ナリ

一候如ノ辨ト申仰タリ口ウマヤル辨トアルハサト是名舞  
ノ様ヤ然トモサナレハナヒヤカナル取アルヘシ句コトヲホリ吹アケテ  
ラハ又樂ハ子ヲキコテコハシキ心アルヘシ既ミノ終吹アケテ  
気ノアルヤウト思ヘシサレト云テ管絃ナシトコトクシク吹ハル  
取人ノ耳ニ立ヤウト不可吹其心ヲエテ吹ヘシ

仙遊霞 早八拍子 譜面無不審

慶人三臺 早四拍子 譜面無不審

長慶子 早六拍子

譜面無不審 行幸立樂奏セ時退出音聲ト樂之吹  
替ヘシ可受口傳大コ有三説上ハ余ノフリモ可替者歟











ケレハ延タルヤキエテシカモシタルカラサルヤ爰程ノ拍子此曲ノ詮  
也奥ニテノ拍子カワル取ナシ惣而於世吹ノ物ニトリテモ當曲ニ  
大事ノヤリ拍子ナルヘシタルカラスツク取サワカレク吹ヘカラス同  
ノウツリサツト吹成ヘシ由ハエト吹取一由始一ヲ吹テ少吹シツメテ  
後ノ一ヲカロクハエト一息ニウツルヘシ一火行奏下此手シテ息人ウ  
クシク吹ヘシ 同只拍子早只拍子ニ返ルヘシ吹極已下極タ  
ル秘傳ナレハ不注シ

五帖於世吹ハ下ハ此下吹ルヘシ三度ナカラ同心ナルヘシ又ハ  
下ニ此下吹サクカラエ吹サケテヨハケレハ心由エ取メリテホセイナリ  
キコエ後ニ初日心ナルヘシ  
破 延四拍子 下由ハ一由ハハエニ此後ハ道行ノ詞ナ

リ拍子ハ道行ヨリハ早カレシ譜面道行ノ註

急 延四拍子 下由ハ一由ハハエニ此後ハ道行ノ註  
ヒトツナリ奏一ハリイワシモ皆ヒトツヤ奏ハ一此ハニナリ又奏ハ一  
リ此ハコトニ吹シツメテ延タリナラ下ハ此ハ一ニナリ又奏ハ一  
此ハ奏ヲ付ハ中吹ヘナリ少早ク吹テハリト延ヘシ以後  
ノ拍子同之此樂拍子大事ヤ同延四拍子其別モアレトモ樂ノ  
心カワレハ其別ハ舟ノ中ニ毒鉈ヲ退ケシカ為ニ金翅鳥ノ音  
ヲ似タリ此急ハ阿音大王之求得然ニ禰人草ヲ裁ラレ侍時  
ノ樂也其意大替ヤ取分如北莫ニ任ラ吹心樂ノカノ相  
違セハ不可然能ク可受師傳シ

萬秋樂序



兼秋息每之譜ニハ行ニテ奏ヲオトモヘリキハアテダアリキ放心ニ  
一リ凡工一リ工火凡行奏行下ニリ下ニ音先大方席ノフリ如常  
此行奏行下奏ニテ少持心アルヘシカラ下ト吹延ニテ大コニ可合下ニ

言ハ下ノ合ニテ大コニ合ニテ下ニコリニ言ト吹テ凡工一ト吹此下ニ

言ヲ前句ノ残ノヤウニ人ヲモヘリ才ニノ大ニ句ノ始ナリ又次下

ノ句トモ同フリヤ残ニ一由乞奏行行奏下凡此詞奏行ニテ句ヲ

キリテ行奏下乞トワニテ一息ニ吹ヘシ才大ニ後奏行

行奏下モ同以後元不審吹

破延八拍子

譜之面無不審吹程拍子之夏ハ一具之時ハ条ノ始一帖タレ

間拍子ツ子延八拍子三臺破ナレトヨリモ凡カニ可延ヤ只

管短講演ナレトニアル時ハ常ノ延八拍子タレヘシ

二帖三帖四帖皆口太フ四ハ替テ此破返付也五帖モ口

吹大鼓六斗別ノ詞後ハ又一帖カレ半帖ヨリ於世吹備家其

吹様常ノ如シ是ニ六帖ニ成テ拍子急ニセムヘキ間相拍テ拍

子ヲサヘテ半帖ノ末大鼓ニハカリヨリ拍子ヲヨセラテ笙ヲサシ

ヲカス六帖吹ウツル其時候ニヨセントスレハワロクキコエ六帖大コ

ニハカリ後殊ニ早成ニ拍子加テ以後猶拍子ヲウキトタシヤカ

ニダカイニ膝拍子ヲ心持テ次第ニセメテ拍子ヲヨセ吹ヘシ

六帖於世吹此拍子アヒハ一帖ヨリ次第ニ早成ニ此帖

キワレ拍子ナレハ勿論早カルニ但早ニ取テ吹様大夏也句ヲ

ウリサハトアキラカスミワタリニシカト吹ヘシ天上世界佛菩薩ノ御前ニテ奏系ナレハモノサワカセクユヘナウハアルヘカラス



但コレノミナケカレキ莫や不受師傳者イカニ如此書付タリ  
トモオトリカタレサレトモ未生、出テ又其唄ヲ知モノモアルヘキ為  
如秋書注者也樂詞工凡此二字ハ同心ナリ仍拍子アタニ下由  
コノ下ハヨク心アテ、吹シカモ大ニ合次、心ナシ仍拍子ア  
タラス大方拍子ノアタラサル字ハ心ナク批心ナキカヨキナリ  
捨ト申ヘシテ工凡ハ心凡心凡奏下上ノ文字一ツ拍子ア  
各皆心アリ於世吹ノ地文ナリナテ凡由工上トツ息吹拍  
子ハ音ノアヤコレヲ於世ト云ニヤ如批知吹人アルハカラス以  
後同之凡奏下奏心ナク早ク下ハウレハ此ハイワクモ同之  
又破、只拍子アリ無不審於世吹テ吹切タルハ仍交秘  
秋風系 延ハ拍子  
第三大ニ凡由凡工凡奏下、此工後ノ吹シツメワ少持心

アリテ凡奏ト早ウツリニ下ニ拍子ヲ合テニ延テ小息ナリ  
凡ハ大コノ後下由凡心凡奏下コレモ同シ又行奏下凡工凡  
此行奏下ハ始テ吹シツメテニメヲハカロクサテ凡一此下ニナル  
凡不延一下吹テ凡此凡心ナシサテエリト始テ是モ延テ後ハ火  
ヲ付タリ早也

二帖三帖拍子同之仍无不審但三帖凡ニテ大コ後  
詞凡工凡奏下凡心凡奏下ハ吹クセナリ樂ノ詮ナリ面白吹ナス  
ヘシ只拍子有之無不審

輪臺

中ハ拍子

兼秋之譜云コノ序トカキ然ハ音海波ハ破  
ナルヘシ延輪臺詔アリ

由行奏此ハ始テ延テ後ヲ火ニ行奏ト此奏ヲ吹下ク一カラ又  
中ヨリモナヲ吹ハリテ下由シト吹ヘシ由ノ字付凡取ハ皆ツク



息ノ拍子ナリ又オ三太ヲ後下由シ火ニ此ハ二十ナリニナカラ  
早シ火ニ此エモ二十ナリエヨリシハウツル取火ヲ付タリサテ  
後ト吹シツメテ始ヲノヘテ火エリト吹ヘシ

吹渡 只拍子 舞之時必アリ 下由火リ火由エリ 延八拍後、キレテ

子拍子ノ常ノ只拍子ヨリモ少早カルヘシ又早只拍子ハアラス是  
等ク中八拍子ナルヘシ長短之吹渡青海波ニ有之吹板日前

青海波 早八拍子

心由エ由乞一由始、元ス一イウレモ定持テ後、息ニテツクシ他取吸ス得タレハ無子細オハノ大コ後

心由火心此拍子ツクモアラス早キ拍子也火ヲ付タリシカ

スハ一由乞ナトアル取ノツク心ハアナカキ早モアラス少押タル

心アリテ拍子シホアイ息ノ餘情ナリ息ノ入様カレハ大事

也三モイラ子ハ何ノフモナシ様アリトテ心カケテ人ノ吹ヲモ聞

自身モ卷角アツカヘハ事一アリト知ルヤ此次ハ心心一此心

ヲツケテ吹シツメテ持レサテ心下心下心奏乞トヤウラカ心吹下心

鳥向乐 延八拍子

オハ大鼓心二心ナリ心此心中延

テ小息ナリ半帖後オ二大鼓心下心心心此心心心延心拍

子ヲアテ、吹心吹クセナリ太平未破、又奥ノ心心心奏下心心心此

下心ナリ心中延心テ小息ナリ拍子ノサレ心見心假令心トアリ

テ次ノ心拍子ヒトツアラハ前ノ心中延心テ小息心若心拍子日

ヤウニサレタリトモ次ノ心拍子ニアタリタラハ一延心テ小息心此

見拍順他只拍子アレトモ

宗明樂 延八拍子 才オ大鼓後下心心心下心



















ノ名モアヤカキニナシ申テ吹ニワメタルカ延タルヤウニ  
シイハシモ由ノ取ハク拍子ナリ於世吹ノカタチナリ拍子真ニシ

注不及序吹下下乞リ乞リ乞十一比凡凡リ吹下下乞リ乞比凡凡リ

太コニ延ハ勿論ナリ他取延ハ心ヨク吹習ヘシ笛合テノ延ヒメナリ

二帖 通タル六拍子 凡十三才十五セカヲ 凡アリ 又才十五四カコ

コレモ於世吹拍子今一帖ノ如ク取註付ニ延ト申取ハ句ノカシラノ  
下ナシニ由ルカ始ノラカ延持心ナリ 字ハ悉リノ文字ヲ付ストモ皆延トシルニ大コソツホヲ延フトハ勿論

三帖 大音六拍子 但才十才十五朝鼓於世吹也

比リ乞比リ乞凡リ比如地ナリ常ノ譜ハ人ニ教吹スルトモ又自身  
吹トモ句ノカシラコトヲノヘテ吹ト心得ヘシ才一ノ口傳也取分地帖大事  
也能吹ヘシ末ノ序サレタル凡ハ也

四帖 通タル六朝鼓 秘伝才十三才十四カコ又八朝才十五四カコト云

初凡不審略シ於世吹ナリ

五帖 凡凡リ凡凡リ後ニテ吹様同シ延取此也

六帖 大鼓ニシカキノ間凡シ大コアタルヘキ前ノ文字ヲ必可  
吹是ハ地序ニカキラ子トモナルコト、口傳スレハ道ニ明白ナリ

凡ノ符ニ延取地序ニ凡ヲ以テ延ヒメハ笛ノ年長短ニ合テ吹合  
ヘキニヤ一切ノ示笛ニヨル習也サレハ笛吹大事ヤ大凡ナキ人

ノ笛ヲワルク吹ハ余ノ拍子アラヌ竹節ニ成物ニ先他管ヲイワ  
ス我道ノ習ヨケレハ今時煩ヒテテ他人ヲモ可指南系家

ニ習道ノ故實ヲ能可受也

六帖 序吹 乞リ十下下凡リ凡五帖始ノ凡ト此帖ノ

始ノ乞ヲ延ヒ替メヲ能吹ヘシ次ノ大コ下リ乞下下凡凡リ















樂拍子成取故実アリ序ノニメノ大鼓ノ凡クト延ヨリ樂  
拍子ナリ其ヨリ 示拍子成ト心以タレ凡クニ延テ小息ナリ拍  
子ノ譜ハ三延テ小息トシセリ每氣ノ譜ハ下凡ク凡ク凡ク凡ク  
シセリ然大鼓アタレ凡ク上凡ク一拍子ノ譜ニ載タレニ加タルニ仍古  
譜ノ如ナラハ凡ク一吹加ヘキ凡ク當時ハ只下凡クト吹テ凡ク由シ凡ク  
リト吹ナリ又始ノ由比ヲ一息ニ每氣ノ譜ニ注タリ當時ハ只一由  
比一凡クト吹也吹クセアニタアリ其取ヲ注比一ニ比比凡クニ比  
比下凡ク十下下凡ク上ノ句ノ切取能吹ヘシ後ノ下ノ句ヲ切スレテ  
十下下シト吹ケハ大凡クキナリ下ニテ切テシビ下下ト吹シ  
又一凡ク下下凡ク由シ凡ク每氣ノ譜ハ二凡ク下下凡ク凡ク凡ク  
凡ク凡ク凡ク凡ク凡ク如比注セリ但前ノ拍子ノ譜ノ定ヲ可

用他取モ此吹クセテサトルヘシ

寂涼測 延ハ拍子 凡ク此凡クニ延テ三凡ク凡クノスオ三ノ  
大ヲ後凡ク下凡ク由下凡ク凡ク此ノ上ノ下下ハハニナリ後ノ拍子ナシ  
以後同前吹クセトモアリ能ハアキラメラ吹ヘシ

賀殿道行四鞆鼓

忠ノ時早ハ拍子道行時ハ四拍子ニ

鳥急ヲ吹也

下下凡ク下下凡ク 當時吹テ下下凡ク凡ク凡クト吹カヘタリ此  
後説者每息ノ譜ニ注道行時如比吹替タレニ面白シ若ヤ  
一ニルカト能具取ヲ見今タリモ又比説ハ不傳間後ニ分別  
スルヤ未代ノ為ナレハ委注ノ賀殿急時ハ下下凡ク下下凡ク  
ト注タリ然ハ道行之時吹替タレトハ只鳥急ヲ其ニ  
吹ニ對ニ注トモ云々余ノ取無不審











ナリトシト十々々公々々一々々十十トシ己上破返行

序 拍子六長祝十六拍子又替之本説アリ

公々々十比り比一々々此始ノ比ヲ不延吹説次之大方句詞元子

細帯之序ヨリモ静スモ吹ヘシ

破 拍子六延八拍子 説、多之以樂ニ及為一帖公十トシ比五拍

比一々々吹始、公拍子ノ譜ハ拍子三ナレタリ然ハ始大丸ノ息ハ諸ニ注ルルニ

拍子ヲサセハ九ナルニ吹クセナリサレハトモ余ノ示アル心ナリ但弗四、大

コノ取比リトトヒトイキニ延一々々下ト下公吹ハ心ナシ又弗五、大コノ後

元下ト元此下ト元カニモウツクシク吹ヘシ元ハニナルレシト

安樂塩 延八拍子 弗三ノ大コノ後公由下ト元下ト元

此ト皆ニ上ノ元ハ中延々ト他ノ取元子細

壹徳塩 日 詞モ拍子モ安樂塩ト日仍略

酒胡子 早四拍子弗二ノ大コノ後ト下公下此ト下公下

イカニモツモトトシテ少持心アルト又弗五ノ後下ト元ト

吹息ヲシテシツメテ下ト下トウウルト人常吹示ナレトモ如

此ハナキナリトモ又申サレシナリ

武徳樂 早四是モ奥ノト下公下此拍子如酒胡子

新羅陵王急 早四拍子 破不常用仍畧

殊 苗家ニ説、有、ハ可ハ傳吹クモナシ仍畧之十六拍子

説アリ名内長乐 又圓長乐 和云團ヲ圓トヤニルモ 又渡物

之時青海波ノ十双調ノ如ク下ト不押是口傳ナリ



不知人他ノ示ハ不然吹ヲ見ヘシ如此ニ殊勝ノ物ナリ  
常ニ吹心ヘシ

右安譜古来如此注支無一悉以空尔習吹此音  
家嫡ノ相兼為才一雖然末代不可殘間予始以思  
業取及筆端注付之能守此肯一道之亦始終拍子  
息入手移如先祖吹既可習之努不可有外見而已

樂記曰

凡音之起由人心生也人心之動物使之然也感於物而動

故形於声相應故生憂成方謂之音比音而樂之  
及王殿羽旄謂之樂者音之所由生也其本在人心之感  
於物也是故其哀心感者其声嗷以殺其樂心感者其  
声嘒以緩其喜心感者其声發以散其怒心感者其  
声粗以厲其敬心感者其声直以廉其愛心感者其声  
和以柔六者非性也感於物而緩動又曰知声而不知音者  
禽獸是也知音而不知尔者衆庶是故不知声者  
不可与言音不知音者不可与言樂

五音  
宮（シ）商（ソ）角（カ）徵（ケ）羽（ク）

平 双 黄 盤



五聲 喉聲 舌聲 齒聲 唇聲 牙聲

八音 金 石 絲 竹 匏 土 革 木

六律 大簇 姑洗 蕤賓 夷則 無射 黃鐘

六呂 夾鍾 中呂 林鍾 南呂 應鍾 大呂

六樂 雲門 黃帝 亦名大卷 大成 堯 亦名咸池

大韶 舜 亦名磬 大夏 禹 亦名

大武 武王 亦名

三舞 七德舞 九功舞 上元舞 唐舞

三夏 肆夏 韶夏 納夏 和九夏之門三夏ト云テ也 林廣記有之

笙 五管各物者

高市 唐竹也 利比黃時 乞竹 本根續 乞竹ヲワケテ口金無之ホリクホム

幾 仇氣 繪 唐笙比竹ノ本 梓裝束一寸余有之口ノ面モホリモノアリ

白 梓 寸法第付如北唐竹也 工竹裏ニ如北書付ノ一 貞明三年 二竹ノ末ニ梓裝束ニ寸有之壹終ニ牡丹唐草地梨地壹ハ黃時葉 ツルハ白時口金ノアツサ太方ノ如シ正月造此年号者唐ノナリ

文 丸 行上行下カハルハ也言ノ外ハ皆梓裝束 有し星管

法 華 寺 工竹裏ニ如北貞觀八年七月廿八日持度ノ徳金公從西回西明寺借住ノ一 己竹ノ本梓裝束一寸有比竹ノ第一有之ノカケ地ハ黃時也

己上五管各物ト申傳タリ 箇々ニ一折ナリ

古今各物次第不同 攷故 幸秋自筆撰之者

大胡弓 緯 小胡弓 緯 橋皮 占 雲 和 石 不 晉 古 小 笙 古

法華寺 達智門 武家所 四重代 二千石 仙同 武市 火置 當家 太子死 日

墨 崎 占 壹 給 中四代 文 丸 占 伏見中納言師仲集大唐高 乘本朝三國竹作ノ 下 腰 日裏

六歩の太道 國文



衣冠古白樺古新更丸當家先祖公星作

唐山名古

小唐笙古無名古菊丸古蜂丸古壞丸古古屋丸古一管古

袖丸古大唐武家所出通今内裏出物英秋進上節日旅穴日本屋前日新屋前日

小笙武家難波丸日紅葉仙洞郭公日杉風日小唐日開丸日

獨穴口糸卷山科丸橘丸今金友生源寺山科丸秋風丸

孔荏丸武系櫻木日唐笙日師子丸當家千白日象化日

寒月日紫丸日鶯丸日新唐丸日天曆日蓬萊日

鳳凰山科丸黑丸花山院愛黑公里所持笙今度武家所取禁

應永六七年卯月十八日撰也小唐笙愛黑所送武家所所依中秘藏黑管夕顏

ヲ二千餘ニサマシム各ヲ管中ニ予ニ下書進上由面目至也也愛黑者予之入ナリ

方磬 井物ノ下ニ錐載之大概十一重而書

義管笙	義管笛
笙斗字	笙斗字
笙也字	笙也字
笙千字	笙千字
笙八字	笙八字
笙上字	笙上字
笙工言字	笙工言字
笙凡字	笙凡字
笙下字	笙下字
笙十字	笙十字
笙表字	笙表字
笙七字	笙七字
笙比字	笙比字

已上古譜如此



上八上一 己	上七上工 卜	上六上五 斗	上五系 也 十	上四系 師說也 長方分給 一說系白使道能翻也 五	上三三 八	上二六 上六	上一元 言 工下
下一合 凡六	下二四 レ下	下三一 下土	下四上 十上	下五江 券	下六赤 全	下七工 甲	下八凡 比

笙譜

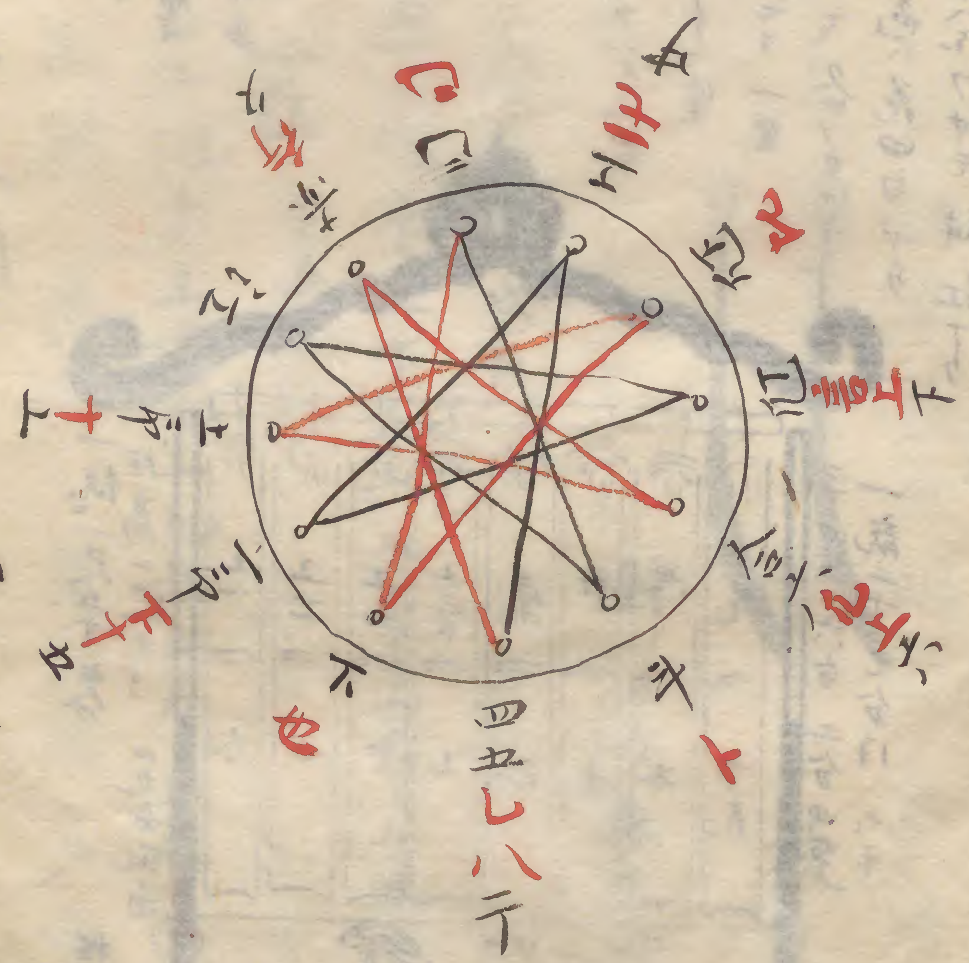
古譜說、并師說相並注進之但笙并笛合音私勘付之定有紕繆、又有凡字二所謂上凡下凡是也作譜之時兩音混濫有其煩之故今始作其字已僕之今案也其恐甚多然而天性蒙昧之間為備後覽、他人之可用事耳

六調子品并二十八調子莫等注、略、平

建久四年三月十日依作注進之散位 有安



以十二律圖知其位樣



笙笛付之

已上是二テハ續教訓抄等所載之ヤ

凡	六	五	平	市上	巳	斗	卜下
言工	上	八	千	也十	赤工中	今四中	四一中
凡	工	赤	江	上	一	四	合凡
比七	一	千	券	中	下	下	

住吉神主津守國基娘之師  
大宋國魏教譜曰

斗  
卜下



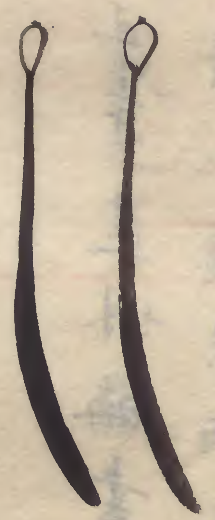
方鼓  
或方響  
一各編五

早エテアハイ一雙  
又アハイ一雙  
又アケテキ一雙  
結アヒモ、各フサアリ  
ワシロ色ハ花田白ヤリ  
くナルヒフサモ 紺紅ナリ



鹿角

鯨ヒケ



掬  
ナリ

鯨ノヒケ無之時牛角ヲ用イ

金各云次

合四一上江赤工下凡六  
五吊上吊上上工上一

一説 金各曆

合四一上江赤工下凡六  
五吊上吊上上工上一

廿八調



仲吕调 越调 平调 仙吕调 双调

盘涉调 高调 黄钟调 大石 小石

高大石 高平 正平 坎指 大石角

双角 高角 正宫 仙吕宫 南吕

黄钟宫 道宫 中吕宫 高宫 高宫

高平角 近平角 仙吕角

己丑七月甲申二十日壬子大宋乐人魏奇录

真女  
永亨三年十一月晦書之

右方磬面故治秋朝臣自筆記置者也當  
時絕景雖然明白之案譜幸在之条為後  
生載之可秘藏





仲冬朔 越朔 平朔 仙旦朔 越朔

盛修朔 高朔 黃鐘朔 大春 小春

高天 高平 正建 按指 大春

高角 正宮 仙旦宮 南宮

高宮 道宮 中宮 高宮

高平角 迄平角 仙旦角

山色七月庚申二十日壬子大末半

水清遠之在妹齋

相與昇龍然用日之辨論

古方勢昌同故以好陳西日舞 乃經田口

